

# 平成 30 年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 試掘調査

- 岡田遺跡 (第 31～34 次)
- 小貫山遺跡 (第 2 次)
- 上馬場遺跡 (第 5 次)
- 地蔵根遺跡 (第 3・4 次)
- 遠原遺跡 (第 4・5 次)
- 平磯長堀南遺跡 (第 2 次)
- 市毛上坪遺跡 (第 20～24 次)
- 虎塚古墳群 (第 12 次)、北谷遺跡 (第 3 次)、中根北谷北遺跡 (第 2 次)
- 高野富士山遺跡 (第 12 次)
- 磯合古墳群 (第 4 次)
- 浅井内遺跡 (第 2・3 次)
- 天王前遺跡 (第 6・7 次)
- 向野A遺跡 (第 5 次)
- 黒袴遺跡 (第 7 次)
- 蛤遺跡 (第 1 次)
- 市毛本郷坪遺跡 (第 9 次)
- 西崎遺跡 (第 12 次)
- 君ヶ台遺跡 (第 12・13 次)
- 原の寺遺跡 (第 1 次)
- 堀口遺跡 (第 29 次)
- 市毛下坪遺跡 (第 14～17 次)
- 松原遺跡 (第 6 次)
- 田宮原 1 遺跡 (第 1 次)

## 本調査

- 市毛上坪遺跡 (第 19・25 次)

2019



1 市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況



2 市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡ピット 2 遺物出土状況



## 序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約16万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約13kmの海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、3百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありますが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様から感謝申し上げます。

平成31年3月

ひたちなか市教育委員会  
教育長 野沢 恵子

## 例 言

- 1 本書は、平成30年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、平成30年1月から12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、岡田遺跡、小貫山遺跡、上馬場遺跡、地蔵根遺跡、遠原遺跡、平磯長堀南遺跡、市毛上坪遺跡、虎塚古墳群、北谷遺跡、中根北谷北遺跡、高野富士山遺跡、磯合古墳群、浅井内遺跡、天王前遺跡、向野A遺跡、黒袴遺跡、船遺跡、市毛本郷坪遺跡、西塚遺跡、君ヶ台遺跡、原の寺遺跡、堀口遺跡、市毛下坪遺跡、松原遺跡、田宮原1遺跡の計25遺跡について、38件の試掘・確認調査を実施し、市毛上坪遺跡、岡田遺跡の計2遺跡について、4件の本調査を実施した。調査期間等は2～3頁一覧表のとおりである。そのうち、岡田遺跡（第35次）、市毛上坪遺跡（第26次）の本調査分については、資料整理期間の都合により来年度刊行の報告書に掲載することとした。なお、中根北谷北遺跡、北谷遺跡、虎塚古墳群は、中根の荒谷地区の畑地帯総合整備事業に伴う試掘調査であり、今回は平成27～29年度の3か年調査計画の第3年度の調査報告である。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理 事 長	永盛 啓司	
副 理 事 長	須藤 雅由	
常 務 理 事	鈴木 隆之 横須賀 重夫	
理 事	杉山 和子	大和田 健 綱川 正 鈴木 一成 加藤 恭子 福地 佳子
監 事	武藤 猛 安 智範	
文 化 課 文 化 財 調 査 事 務 所	参 事	鈴木 素行
	課 長	小泉 裕
	課 長 補 佐	佐々木 義則
	係 長	稲田 健一
	嘱 託	菊池 順子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。  
調査員：佐々木義則  
調査補助員：青木千歌子、榎澤由紀江、海老原四郎、岡野政雄、小貫栄子、海後晴美、助川説、坪内治良、中嶋順子、廣水一真、矢野徳也、山田梨央、渡辺恵子
- 5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。  
稲田健一、照沼沙保里、榎澤由紀江、小貫栄子、海後晴美、菊池順子、柳崎美子、後藤みち子、佐々木義則、佐藤富美江、助川説、鈴鹿八重子、鈴木素行、中嶋順子、西野陽子、矢野徳也、山田梨央
- 6 本書は、佐々木義則が編集した。
- 7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。  
鈴木素行（弥生時代以前の遺物） 稲田健一（古墳時代の遺物） 矢野徳也（岩石同定） 佐々木義則（左記以外）
- 8 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 9 本書の作成にあたっては、次の方々にご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）  
（株）安住、飯村繁、飯村清一、飯村透、飯村まゆみ、（株）池田山エステート、磯崎俊良、打越東、雲類鶯古枝、雲類鶯つや子、江崎照男、大串幸二、大塚真人、大友規至、大和田重次、大和田良子、岡崎辰徳、岡崎礼子、小野瀬邦子、金光和紀、川崎一郎、川崎敬一、川崎純徳、栗田智昭、黒澤誠一、黒澤千恵子、軍司文子、軍司正嗣、軍司美奈子、ケイアイスター不動産（株）、小池文子、小石川佳正、五位潤裕、小松崎広行、小松孝弘、昆野伝、昆野弥、（株）サトウエージェンシー、白土拓弥、進藤大輔、杉山一樹、鈴木陽大、鈴木佳子、住谷光男、田村一真、照沼三夫、照山久兵衛、飛田悦子、富田あさみ、西野勲、西野滋、西野光、西野博行、（有）根崎工務店、芳賀貴則、一建設（株）、塚健一、（株）ビジョナリー、平野恵子、平野里子、平野寿人、ベニヤ商事（株）、三木保、（有）水戸不動産、（有）三井考測、諸根洋、諸根好男、安紀美江、安良訓、安住多、安進、安次男、安正機、柳橋秋盛、柳橋岩、山外功太郎、山縣恵子、山方義一、大和直輝、（有）ユーハイム、渡辺賢人
- 10 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総 務 課 文 化 財 室	課 長	井上 亨
	文化財室長	千葉 美恵子
	主 事	照沼 沙保里

# 目次

I 概要	1	16 市毛本郷坪遺跡	30
II 試掘調査報告	4	(1) 第9次調査報告	30
1 岡田遺跡	4	17 西場遺跡	31
(1) 第31次調査報告	4	(1) 第12次調査報告	31
(2) 第32・33次調査報告	5	18 君ヶ台遺跡	32
(3) 第34次調査報告	6	(1) 第12次調査報告	32
2 小貫山遺跡	7	(2) 第13次調査報告	33
(1) 第2次調査報告	7	19 原の寺遺跡	34
3 上馬場遺跡	7	(1) 第1次調査報告	34
(1) 第5次調査報告	7	20 堀口遺跡	34
4 地藏根遺跡	8	(1) 第29次調査報告	34
(1) 地藏根遺跡第3次	8	21 市毛下坪遺跡	35
(2) 地藏根遺跡第4次	8	(1) 第14次調査報告	35
5 遠原遺跡	9	(2) 第15次調査報告	36
(1) 第4次調査報告	9	(3) 第16次調査報告	37
(2) 第5次調査報告	12	(4) 第17次調査報告	38
6 平磯長堀南遺跡	13	22 松原遺跡	38
(1) 第2次調査報告	13	(1) 第6次調査報告	38
7 市毛上坪遺跡	14	23 田宮原1遺跡	39
(1) 第20次調査報告	14	(1) 第1次調査報告	39
(2) 第21次調査報告	14	III 本調査報告	40
(3) 第22次調査報告	14	1 市毛上坪遺跡第19次調査報告	40
(4) 第23次調査報告	16	(1) 調査の経過	40
(5) 第24次調査報告	16	(2) 住居跡	40
8 虎塚古墳群、北谷遺跡、中根北谷北遺跡	19	(3) 土坑	48
(1) 虎塚古墳群第12次・北谷遺跡第3次・		(4) 調査区出土遺物	50
中根北谷北遺跡第2次調査報告	19	2 市毛上坪遺跡25次調査報告	52
9 高野富士山遺跡	22	(1) 調査の経過	52
(1) 第12次調査報告	22	(2) 住居跡	52
10 磯合古墳群	23	(3) 溝跡	56
(1) 第4次調査報告	23	(4) 道跡	56
11 浅井内遺跡	25	(5) 土坑	56
(1) 第2次調査報告	25	(6) 調査区出土遺物	57
(2) 第3次調査報告	25		
12 天王前遺跡	26		
(1) 第6次調査報告	26		
(2) 第7次調査報告	27		
13 向野A遺跡	27		
(1) 第5次調査報告	27		
14 黒袴遺跡	29		
(1) 第7次調査報告	29		
15 緒遺跡	29		
(1) 第1次調査報告	29		



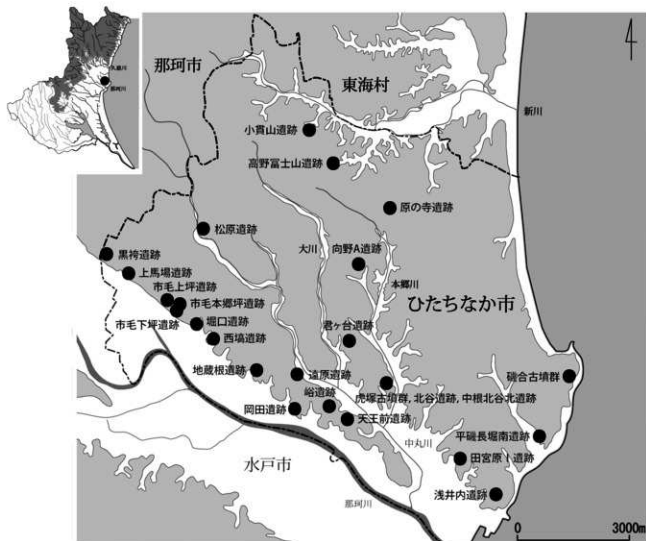
# I 概要

ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積99.96 ㎓、人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し、茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。平成30年は、25カ所の遺跡において試掘調査38件、2カ所の遺跡において本調査4件が実施され、市毛上坪遺跡における古墳時代住居跡の調査や、岡田遺跡における古墳時代後期住居跡等の成果を得ている。



第1図 調査遺跡の位置



第1表 平成30年市内道路発掘調査一覧

No	道路名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	三反田字編 岡田道路	31次	三反田字編 3503番1ほか	1月10～13日	個人住宅	試掘	540㎡	29㎡	溝跡1条、土坑1基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器
2	市毛上坪道路	19次	市毛上坪 1194番1	1月11日～ 2月7日	個人住宅	本調査	93㎡	91㎡	住居跡4基(古墳2、平安2)、 土坑9基、ビット7基	土師器、須恵器、 鉄製品、石製品
3	高野字坂宮 小黄山道路	2次	高野字坂宮 2281番16ほか	1月16日	個人住宅	試掘	457㎡	32㎡	なし	なし
4	伊田字福台 上馬場道路	5次	伊田字福台3053番 ほか	1月30～31日	個人住宅	試掘	309㎡	24㎡	ビット1基	なし
5	勝倉字地蔵廻 地藏根道路	3次	勝倉字地蔵廻2825番 ほか	2月13日	宅地造成	試掘	975㎡	27㎡	なし	なし
6	金上字相対 遠原道路	4次	金上字相対1202番7	2月27日～ 3月7日	集合住宅	試掘	673㎡	59㎡	住居跡1基	縄文土器、須恵器
7	平磯町字長塚 平磯長塚南道路	2次	平磯町字長塚4964番	3月6～8日	個人住宅	試掘	320㎡	25㎡	溝跡1条、ビット1基	なし
8	市毛上坪道路	20次	市毛上坪1209番	3月14日	道路	試掘	62㎡	14㎡	住居跡2基、溝跡1条	旧石器、縄文土器、 弥生土器、土師器、 須恵器
9	鹿保古墳群 北谷道路 平根北谷北道路	12次 3次 2次	中根4625番ほか 中根4465番ほか 中根4401番1ほか	12月5日～ 3月25日	墳地整備	試掘	30,727㎡	1,950㎡	古墳1基、 住居跡10基(平安6)、 溝跡4基、土坑4基、 ビット11基	縄文土器、土師器、 須恵器、陶磁器、 鉄製品
10	高野富士山道路	12次	高野富士山 1695番1	4月10～11日	個人住宅	試掘	454㎡	40㎡	住居跡1基(古墳1)、 土坑1基、ビット4基	土師器、須恵器
11	磯崎古墳群 磯合古墳群	4次	磯崎町磯合 3747番3ほか	4月10～24日	集合住宅	試掘	941㎡	95㎡	古墳1基	土師器
12	浅井内道路	2次	浅井内13081番1	4月17～20日	個人住宅	試掘	333㎡	42㎡	溝跡1条	なし
13	三反田字天王 天王前道路	6次	三反田字天王 5142番2	5月11日～ 17日	個人住宅	試掘	532㎡	50㎡	溝跡2条、土坑4基	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器
14	遠原道路	5次	金上字大平1220番	5月11日～ 17日	福祉施設	試掘	999㎡	98㎡	住居跡5基(古墳3)、 土坑2基、ビット4基	縄文土器、弥生土器、 土師器、石器
15	岡田道路	32次	三反田字八幡 3567番5	5月22日～ 25日	個人住宅	試掘	277㎡	25㎡	なし	なし
16	岡田道路	33次	三反田字八幡 3567番1	5月22日～ 25日	個人住宅	試掘	276㎡	25㎡	住居跡4基(弥生2)、 土坑2基	弥生土器、土師器、 須恵器
17	市毛上坪道路	21次	市毛上坪1209番2	5月22～29日	個人住宅	試掘	235㎡	26㎡	住居跡3基(古墳3)	弥生土器、土師器、 須恵器
18	浅井内道路	3次	浅井内13081番2 ほか	6月5～7日	個人住宅	試掘	466㎡	45㎡	ビット1基	なし
19	馬渡字向野 向野A道路	5次	馬渡字向野2884番2 ほか	6月5～14日	区画整理	試掘	870㎡	52㎡	溝跡1条	なし
20	黒崎道路	7次	津田字西原3343番2	6月12～19日	個人住宅	試掘	248㎡	25㎡	なし	なし
21	三反田字 略道路	1次	三反田字略3957番1 ほか	6月19～26日	障害児通所 支援施設	試掘	1,715㎡	114㎡	溝跡1条、土坑8基、ビット7基	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器

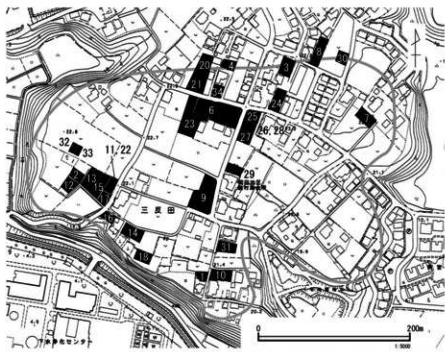
No	通称名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
22	市毛上坪遺跡	22次	市毛字上坪 1206番1 ほか	6月26～27日	個人住宅	試掘	202㎡	18㎡	住居跡4基(弥生1、古墳3)	弥生土器、土師器、 須恵器
23	市毛本郷坪遺跡	9次	市毛字本郷坪 469番10	7月10～19日	宅地造成及び 建築住宅	試掘	871㎡	89㎡	住居跡11基(古墳3、平安1)、 溝跡1条、土坑2基	縄文土器、 土師器、須恵器、 中世土器
24	西境遺跡	12次	武田字嵐山 408番 ほか	7月18～19日	区画整理	試掘	500㎡	10㎡	なし	なし
25	君ヶ台遺跡	12次	中根字深谷津 3655番8ほか	7月24～27日	建築住宅	試掘	436㎡	45㎡	なし	なし
26	原の寺遺跡	1次	足崎字原 459番の 一部	8月10～21日	個人住宅	試掘	268㎡	26㎡	なし	なし
27	市毛上坪遺跡	23次	市毛字上坪 1209番3	8月21～28日	個人住宅	試掘	223㎡	18㎡	住居跡3基(古墳3)、 土坑2基	縄文土器、弥生土器、 土師器
28	市毛上坪遺跡	24次	市毛字上坪 1194番4	8月21～30日	個人住宅	試掘	240㎡	23㎡	住居跡4基(奈良・平安4)、 ピット2基	土師器、須恵器
29	堀口遺跡	29次	堀口字堀坪 42番2	9月11～28日	宅地造成	試掘	839㎡	108㎡	住居跡8基 (古墳3、奈良・平安4)	土師器、須恵器
30	天王前遺跡	7次	三反田字天王前 5142番11	9月19～20日	個人住宅	試掘	617㎡	45㎡	溝跡1条	縄文土器
31	市毛上坪遺跡	25次	市毛字上坪 1209番2	9月26日～ 10月16日	個人住宅	本調査	120㎡	116㎡	住居跡5基(古墳)、溝跡1条、 道跡1条、土坑2基	弥生土器、土師器、 須恵器、陶磁器、 石器、鉄製品
32	市毛下坪遺跡	14次	市毛字下坪 420番1	10月10～19日	集合住宅	試掘	797㎡	69㎡	住居跡6基(平安)、溝跡1条、 土坑3基	土師器、須恵器
33	岡田遺跡	34次	三反田字北長町 3618番2	10月23～26日	個人住宅	試掘	247㎡	21㎡	住居跡6基(奈良・平安6)、 溝跡1条、土坑1基	土師器、須恵器
34	岡田遺跡	35次	三反田字八幡 3567番1	10月24日～ 11月16日	個人住宅	本調査	80㎡	68㎡	住居跡2基(古墳1、平安1)	弥生土器、土師器、 須恵器、石器
35	君ヶ台遺跡	13次	東部第1区画整理事 業街区 1417号9 ほか	10月30日～ 11月2日	区画整理	試掘	1,763㎡	20㎡	なし	なし
36	地蔵橋遺跡	4次	勝合字地蔵根 2827番3	11月7～9日	集合住宅	試掘	714㎡	54㎡	住居跡2基、溝跡1条	なし
37	松原遺跡	6次	田彦字松原 790番9	11月13～16日	グループ ホーム	試掘	460㎡	49㎡	なし	縄文土器
38	田高原1遺跡	1次	田高原 4287番1	11月20～22日	個人住宅	試掘	439㎡	24㎡	なし	なし
39	市毛上坪遺跡	26次	市毛字上坪 1206番1、 1209番6	11月27～ 12月18日	個人住宅	本調査	202㎡	101㎡	住居跡4基(古墳)	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 銅製品、ガラス小玉
40	市毛下坪遺跡	15次	市毛字本郷坪 440番19ほか	12月4～5日	個人住宅	試掘	235㎡	26㎡	溝跡1条	土師器
41	市毛下坪遺跡	16次	市毛字本郷坪 440番6の一部	12月4～7日	個人住宅	試掘	202㎡	22㎡	なし	土師器、須恵器
42	市毛下坪遺跡	17次	市毛字本郷坪 440番20ほか	12月4～7日	個人住宅	試掘	320㎡	19㎡	溝跡1条	土師器、須恵器

## Ⅱ 試掘調査報告

### 1 岡田遺跡

#### (1) 第31次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から80mほど離れた場所に位置し、東側に緩く傾斜する地形を呈する。調査は6カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、確認面での推定幅2mを測る溝跡1条と、規模が不明な土坑を1基確認した。溝およびピットは、年代を決定できる出土遺物がなく、時期は不明である。調査区からは、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器が少量出土している。



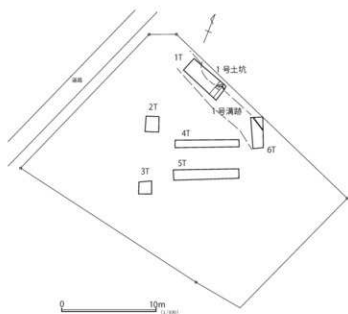
第2図 岡田遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第2表 岡田遺跡調査一覧

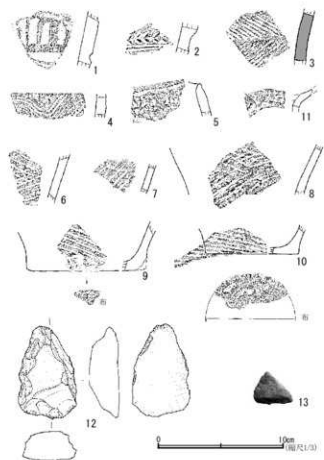
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1982	岡山市教委	試掘	なし	1
2	1983	岡山市教委	本調査	住居跡3(土台1, 古墳後期2)	2
3	1985	岡山市教委	試掘	住居跡2(古墳後期1, 不明1)	3
4	1990	岡山市教委	本調査	住居跡3(8世紀1, 9世紀1, 不明1), 竪穴遺構1	4
5	1991	岡山市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居跡5(土台1, 古墳後期1, 8世紀2, 9世紀1)	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居跡2(時期不明)	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居跡1(土台)	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居跡2(時期不明)	なし
15	2007	市教委	試掘	住居跡1(時期不明)	9
16	2007	市教委	本調査	住居跡1(古墳後期, 溝1)	9
17	2007	市教委	試掘	住居跡1(時期不明)	9
18	2010	公社	試掘	住居跡2(土台1, 時期不明1)	10
19	2011	公社	試掘	住居跡6(土台4, 古墳前期1, 時期不明1)	11
20	2012	公社	試掘	住居跡1(時期不明)	12
21	2012	公社	試掘	住居跡2(古墳後期1, 時期不明1), 溝1	12
22	2012	公社	試掘	土坑2, ビット9	12
23	2012	公社	試掘	住居跡6(奈良・平安4, 時期不明2), 土坑2, ビット4	12
24	2013	公社	試掘	住居跡1(奈良・平安)	13
25	2015	公社	試掘	住居跡1(古墳), ビット1	14
26	2015	公社	試掘	住居跡5(弥生1, 古墳1, 平安1, 時期不明2), ビット1(奈良・平安)	14
27	2015	公社	試掘	住居跡1(古墳), 土坑1	14
28	2015	公社	本調査	住居跡5基(弥生1, 古墳1, 平安3), 土坑2(平安1, 時期不明1), 溝1	15
29	2016	公社	試掘	なし	15
30	2017	公社	試掘	なし	16

#### 文献

- 1 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成元年市内遺跡発掘調査報告書
- 5 岡田遺跡発掘調査報告書
- 6 平成15年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成17年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成18年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成19年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第3図 岡田遺跡第31次調査区



第4図 岡田遺跡第31次調査区出土遺物(1)

#### 遺物説明

##### 第4図

- 1 出土位置・注記：1トレ1ミゾ 時代時期：縄文時代早期(田戸下層式) 文様：太辻線文
- 2 出土位置・注記：1トレ1ミゾ 時代時期：縄文時代早期(田戸下

層式) 文様：刺突文、細辻線文

- 3 出土位置・注記：1トレ1ミゾ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：羽状縄文(0段多条のR.L) 備考：胎上に織維を含む
- 4 出土位置・注記：1トレ1ミゾ 時代時期：縄文時代(浮島式か) 文様：押し糸線文(楕円状工具)
- 5 出土位置・注記：1トレ 時代時期：縄文時代(浮島式か) 文様：波状貝殻文(放射筋あり)
- 6 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：大型甕形土器 文様：付加条縄文(L×L, R×R) 備考：胎上に金雲母を含む
- 7 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文(RS)
- 8 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型甕形土器 法量：最大径120mm(残存率18%の部分から推定) 文様：付加条縄文(RZ, RS) 備考：器外面に炭化物付着, 器内面が黒く変色
- 9 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型甕形土器 法量：底径94mm(残存率11%の部分から推定) 文様：付加条縄文(L×L), 底面布目痕
- 10 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型甕形土器 法量：底径73mm(残存率32%) 文様：付加条縄文(LZ), 底面布目痕
- 11 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：高坏形土器 法量：坏部最大径54mm(残存率18%)
- 12 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代早期 器種：刮片 石材：ホルンフェルス 法量：長さ73mm, 幅47mm, 厚さ24mm 重量：96.9g
- 13 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代早期 器種：刮片 石材：ホルンフェルス 法量：長さ27mm, 幅31mm, 厚さ6mm 重量：4.6g 備考：石斧製作に伴う刮片

##### 第5図

- 1 出土位置：1トレ 材質：土師器 器種：杯 残存：底部45% 法量：底径(5.7) 色調：外面灰褐色, 内面白褐色 胎上：砂(灰) 特徴：回転糸切り後, 外面体部下端を手持ちへら削り。
- 2 出土位置：1トレ 材質：土師器 器種：杯 残存：底部25% 法量：底径(6.0) 色調：外面褐色, 内面黒色 胎上：— 特徴：回転糸切り。内面へラミガキ・黒色処理。

#### (2) 第32・33次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から90mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は、第



第5図 岡田遺跡第31次調査区出土遺物(2)

32・33次調査区とも5カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.7mを測る。

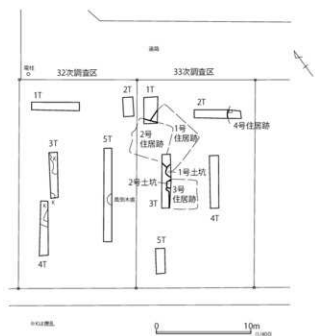
第32次調査区は、調査の結果、風倒木痕が1カ所確認されたのみで、遺物の出土も見られなかった。

それに対して隣接する第33次調査区では、住居跡4基、土坑2基が確認された。住居跡は1・4号住居跡が弥生時代後期、2・3号住居跡は出土遺物がなく時期不明である。1・4号住居跡からは、弥生土器小片が少量出土している。確認面からの住居跡の深さは、1号住居跡が25cm、2号住居跡が35cm、3号住居跡が不明、4号住居跡が23cmを測る。土坑は出土遺物がなく時期不明である。なお第33次調査区からは、弥生土器、土師器、須恵器が少量出土している。

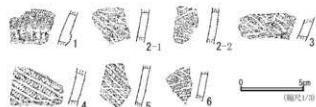
#### 遺物説明

##### 第7図

1 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型甕形土器 文様：陸帯（指洞押印） 備考：胎上に金雲母を含む



第6図 岡田遺跡第32・33次調査区



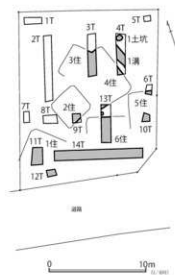
第7図 岡田遺跡第33次調査区出土遺物

- 2 出土位置・注記：2トレ4住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（L,Z,R,S）
- 3 出土位置・注記：2トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（L,Z,R,S）
- 4 出土位置・注記：2トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（L,Z,R,S）
- 5 出土位置・注記：2トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中甕形土器か 文様：付加条縄文（L×L）
- 6 出土位置・注記：1トレ2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：大型甕形土器 文様：付加条縄文（L,Z,R,S） 備考：胎上に金雲母を含む

### (3) 第34次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷の谷頭部から100mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は、14カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.7mを測る。

調査の結果、住居跡を6基確認した。トレンチからの出土遺物からみて、住居跡は全て奈良・平安時代になると推定される。溝跡及び土坑は出土遺物がなく時期不明である。調査区からは、土師器、須恵器が出土している。

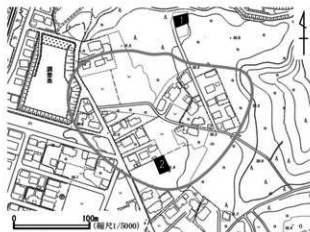


第8図 岡田遺跡第34次調査区

## 2 小貫山遺跡

### (1) 第2次調査報告

調査地は、新川から南方に入り込む谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



第9図 小貫山遺跡の調査地点

第3表 小貫山遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2003	小貫委	試掘	なし	1

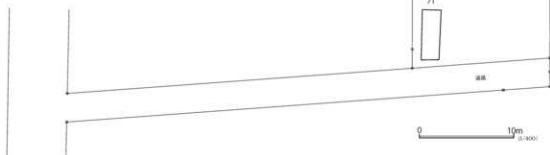
文献

- 1 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書

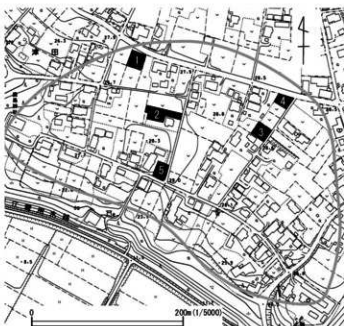
## 3 上馬場遺跡

### (1) 第5次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から70mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～1.1mを測る。調査の結果、時期不明のピットが1基確認された。遺物は出土していない。



第10図 小貫山遺跡第2次調査区



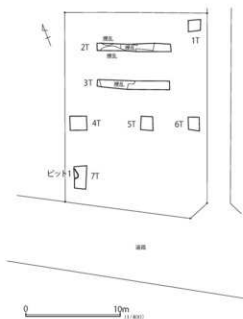
第11図 上馬場遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第4表 上馬場遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1979	勝田中教委	本調査	なし	1
2	2008	公社	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	住居跡3（奈良1、不明2）	3
4	2012	公社	試掘	住居跡1（平安1）、溝3、灰窯1（近代）	3

文献

- 1 上馬場遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第12回 上馬場遺跡第5次調査区

#### 4 地蔵根遺跡

##### (1) 第3次調査報告

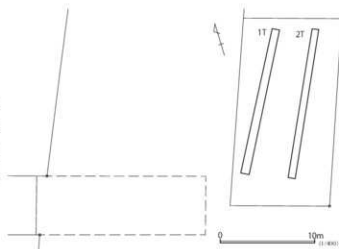
調査地は、那珂川低地から北方へ入り込む谷から170mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は2カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.6～0.9mを測る。調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。

##### (2) 第4次調査報告

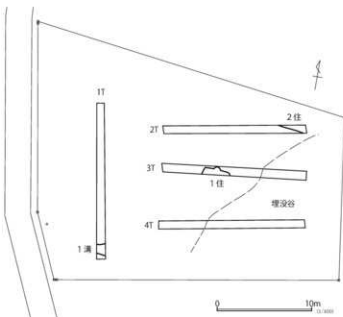
調査地は、那珂川低地から北方へ入り込む谷から100m



第13回 地蔵根遺跡の調査地点（数字は調査回数）



第14回 地蔵根遺跡第3次調査区



第15回 地蔵根遺跡第4次調査区

ほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は4カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.8～1.2mを測る。調査の結果、住居跡を2基、溝跡を1条確認した。調査区からの出土遺物はなかった。遺物がないため各遺構の時期は不明である。なお調査区南東部の遺構確認面が深く、浅い埋没谷が入るようである。

第5表 地蔵根遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2015	公社	試掘	住居1（時期不明）、 井戸1（近世以後）、溝3	1
2	2016	公社	試掘	住居3（古墳後期1、奈良1、平安1）	2

##### 文献

- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 5 遠原遺跡

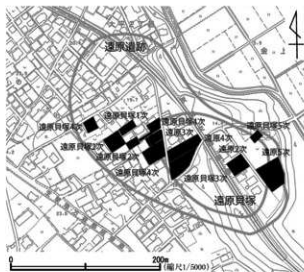
### (1) 第4次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺の緩斜面部に位置する。調査は20カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～1.1mを測る。調査の結果、住居跡を1基確認した。当住居跡からの出土遺物がなく時期は不明であるが、カマドを有するので古墳時代後期以後の住居跡であろう。調査区からは、縄文土器、須恵器が出土している。

#### 遺物説明

##### 第18図

- 1 出土位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代前期（森東式） 文様：縦位置沈線（平載竹管）、押し爪形文（平載竹管）、単節斜縄文（LR）備考：胎上に縦線を含む
- 2 出土位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：押し爪形文（平載竹管）、単節斜縄文（RL）備考：胎上に縦線を含む
- 3 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：口唇部縄文、平行沈線文（平載竹管）、単節斜縄文（RL）備考：胎上に縦線・骨針を含む
- 4 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：押し爪形文（平載竹管）、付加条縄文（LR+r）備考：胎上に縦線を含む



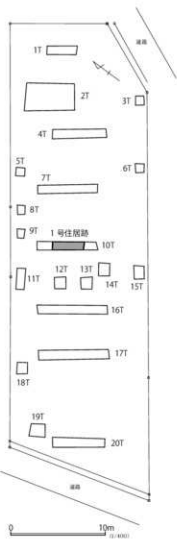
第16図 遠原遺跡の調査地点

第6表 遠原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文獻
1	1991	熊田小教委	試掘	なし	—
2	1997	小教委	本調査	住居跡2（縄文1、古墳1）、土坑2	1
3	2016	公社	試掘	住居跡1（縄文1）	2

#### 文獻

- 1 平成9年内閣府発掘調査報告書
- 2 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

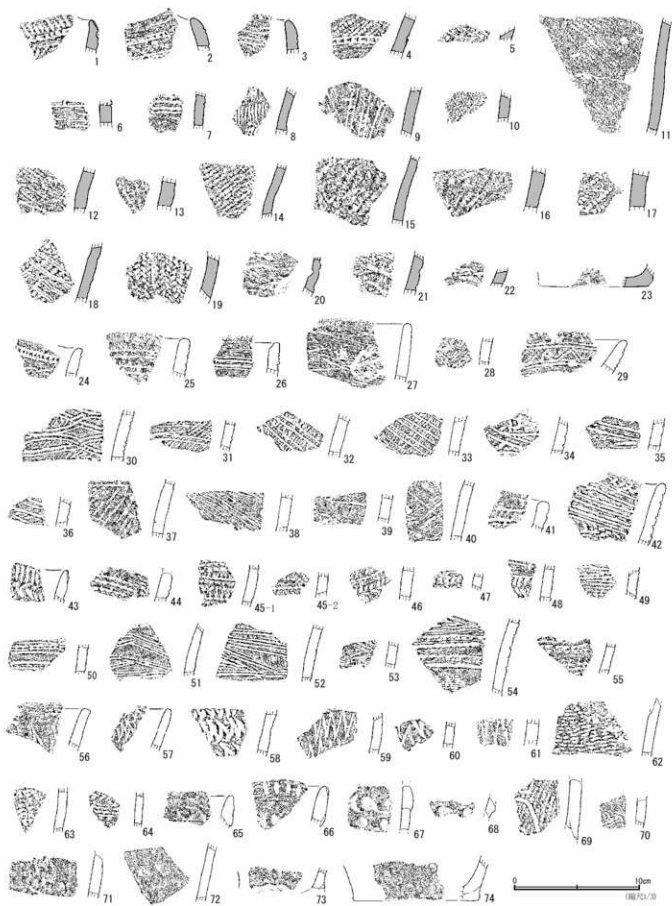


第17図 遠原遺跡第4次調査区

- 5 出土位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：押し爪形文（平載竹管）、縄文？備考：胎上に縦線を含む
- 6 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：押し爪形文（平載竹管）、平行沈線文（平載竹管）備考：胎上に縦線を含む
- 7 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期（植房式） 文様：押し柳歯文 備考：胎上に縦線を含む
- 8 出土位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期前半（植房式） 文様：柳歯文 備考：胎上に縦線を含む
- 9 出土位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：平行沈線文（平載竹管）備考：胎上に縦線を含む
- 10 出土位置・注記：6トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：沈線文（笠状）、単節斜縄文（LRか）備考：胎上に縦線を含む
- 11 出土位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単節斜縄文（RL）備考：胎上に縦線を含む、器外面にネズミの糞り痕
- 12 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単節斜縄文（RL）備考：胎上に縦線を含む
- 13 出土位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単節斜縄文（RL）備考：胎上に縦線を少量含む
- 14 出土位置・注記：14トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単節斜縄文（LR）備考：胎上に縦線を含む



- 15 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：無彫刻縄文(L)か 備考：胎上に繊維を含む
- 16 出上位置・注記：10トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単彫刻縄文(LR) 備考：胎上に繊維を含む。器外面にネズミの齧り痕
- 17 出上位置・注記：19トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：単彫刻縄文(LR) 備考：胎上に繊維を含む
- 18 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(森束式) 文様：異条縄文 備考：胎上に繊維を含む
- 19 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(森束式) 文様：組紐文 備考：胎上に繊維を含む
- 20 出上位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：不明 備考：胎上に繊維を含む。坑成不良。器内外面に繊維の脱落痕
- 21 出上位置・注記：12トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：縄文(原体不明) 備考：胎上に繊維を含む。器外面に繊維の脱落痕
- 22 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 文様：不明 備考：胎上に繊維を含む
- 23 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期前半 法量：底径90mm(残存率11%) 文様：縄文? 備考：胎上に繊維を含む
- 24 出上位置・注記：15トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：爪形文、平行沈線文(半載竹管)
- 25 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管) 備考：器表面に後世の傷多い
- 26 出上位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)
- 27 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：条線文
- 28 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)
- 29 出上位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 器種：浅鉢形土器 文様：平行沈線文(半載竹管)
- 30 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Rの絡条体)
- 31 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Rの絡条体)
- 32 出上位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Gの絡条体か)
- 33 出上位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Rの絡条体)
- 34 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文
- 35 出上位置・注記：5トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Lの絡条体)
- 36 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Rの絡条体)
- 37 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、墨糸文(Lの絡条体)
- 38 出上位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：墨糸文(Rの絡条体)
- 39 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：墨糸文(Iの絡条体) 備考：胎上に金雲母を含む
- 40 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：墨糸文(Lの絡条体) 備考：胎上に金雲母を含む
- 41 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：変形爪形文 備考：器表面に後世の傷多い
- 42 出上位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：口脣部直下に格子状の短沈線(棒状)、平行沈線文・刺突文(半載竹管)
- 43 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：口脣部直下に短沈線(半載竹管か)、変形爪形文
- 44 出上位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：変形爪形文
- 45 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：変形爪形文
- 46 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：変形爪形文
- 47 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、変形爪形文 備考：胎上に赤色粒子目立つ
- 48 出上位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、変形爪形文
- 49 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(興津1式) 文様：平行沈線文、押し爪形文(半載竹管)
- 50 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(興津1式) 文様：平行沈線文、押し爪形文(半載竹管)、変形爪形文
- 51 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)
- 52 出上位置・注記：16トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)
- 53 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管) 備考：胎上に骨針含む
- 54 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：平行沈線文(半載竹管)、変形爪形文、波状貝殻文(放射助あり)
- 55 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：押し文(半載竹管)か、波状貝殻文(放射助あり)
- 56 出上位置・注記：19トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文
- 57 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文
- 58 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文
- 59 出上位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文
- 60 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文
- 61 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文(放射助あり)
- 62 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文(放射助あり)
- 63 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文(放射助あり)
- 64 出上位置・注記：表採 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：波状貝殻文(放射助あり)



第18图 遼原遺跡第4次調査区出土遺物(1)



第19図 遠原遺跡第4次調査区出土遺物(2)

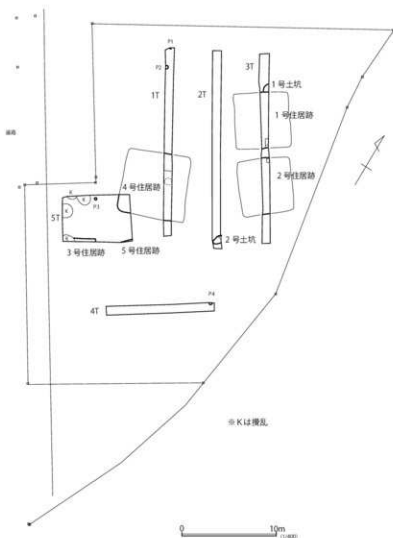
- 65 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：沈線文(袋状?)、押圧痕(指頭)
- 66 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：口唇部刻み(棒状)、押圧痕(指頭) 備考：胎上に白雲母を多量含む
- 67 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：押圧痕(指頭)、成形積上痕
- 68 出土位置・注記：20トレ 時代時期：縄文時代前期(浮島式) 文様：押圧痕(指頭)、成形積上痕
- 69 出土位置・注記：17トレ 時代時期：縄文時代前期後半か 文様：沈線文(棒状)、甲節斜縄文(LR)
- 70 出土位置・注記：8トレ 時代時期：縄文時代前期後半 文様：結節文、甲節斜縄文(LR) 備考：器外面に炭化物(膜状)付着
- 71 出土位置・注記：18トレ 時代時期：縄文時代前期後半 備考：底部付近
- 72 出土位置・注記：5トレ 時代時期：縄文時代前期後半 備考：底部付近
- 73 出土位置・注記：19トレ 時代時期：縄文時代前期後半 法量：最大径70mm(残存率18%)
- 74 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代前期後半 法量：底径100mm(残存率15%)

第19図

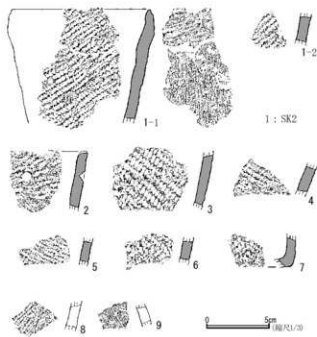
- 1 出土位置：7トレ 材質：須恵器 器種：杯 残存：底面外周20% 法量：底径(84) 色調：灰色 胎土：砂(FL透少、灰少) 特徴：底面外面手持ちヘラ削り。焼成硬質。底面外面摩滅。

(2) 第5次調査報告

調査地は、中丸川低地との比高が約5mほどの低位段丘上に位置しており、中丸川方面にやや緩く傾斜する地形を呈している。調査は5カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～0.6mを測る。調査の結果、住居跡5基、土坑2基、ピット4基が確認された。住居跡は1・2・4号住居跡が古墳時代前期、3・5号住居跡は出土遺物がなく時期不明である。確認面からの住居跡の深さは、1号住居跡が40cm、2号住居跡が33cm、4号住居跡が17cmを測る。4号住居跡は覆土が浅かったため、一部床が露出した部分がある。土坑は2号土坑から縄文土器が出土したため縄文時代の土坑となる可能性がある。1号土坑およ



第20図 遠原遺跡第5次調査区



第21図 遠原遺跡第5次調査区出土遺物

びピットは出土遺物がなく時期は不明である。調査区からは、縄文土器、土師器、石器が出土している。

### 遺物説明

#### 第21図

- 1 出土位置・注記:SK2 時代時期:縄文時代前期前半 器種:深鉢型土器 法量:口径108mm(残存率19%の部分から推定) 文様:単節斜縄文(LR) 備考:胎土に繊維を含む,1-1の下部破片の器内面にネズミの齧り痕あり(上部破片と接合する破断面にも齧り痕が見られている)
- 2 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(LR)もしくは無節斜縄文(L) 備考:胎土に繊維を含む,器外面に焼成後の穴(穿孔途中か)あり
- 3 出土位置・注記:2住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(RL) 備考:胎土に繊維を含む
- 4 出土位置・注記:2住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(RL) 備考:胎土に繊維を含む
- 5 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(RL) 備考:胎土に繊維を含む
- 6 出土位置・注記:2住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(RL,LR) 備考:胎土に繊維を含む
- 7 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代前期前半 文様:単節斜縄文(LR) 備考:胎土に繊維を含む
- 8 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代前期(浮島式) 文様:蕨糸文(Rの絡糸体)
- 9 出土位置・注記:1住 時代時期:弥生時代中期後葉か 文様:藤箱文(藤箱3本)

## 6 平磯長堀南遺跡

### (1) 第2次調査報告

調査地は、平磯の海岸から北方に入り込む大きな谷に臨む台地縁辺から80mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は4カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～1.2mを測る。調査の結果、溝跡を1条、ピットを1基確認した。出土遺物がなく時期は不明である。

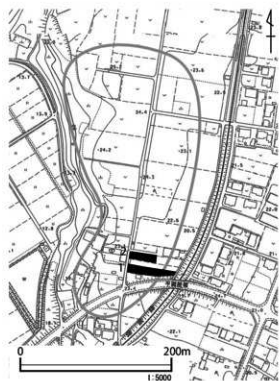
調査区から遺物は出土しなかった。

第7表 平磯長堀南遺跡調査一覧

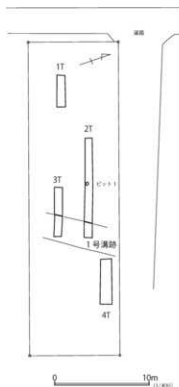
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2014	公社	試掘	溝1	1

#### 文献

- 1 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第22図 平磯長堀南遺跡の調査地点(数字は調査次数)



第23図 平磯長堀南遺跡第2次調査区

## 7 市毛上坪遺跡

### (1) 第20次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から150mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は2か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.8m～1.0mを測る。調査の結果、住居跡を2基、溝跡を1条確認した。1号住居跡は遺存状況が悪く、床のみの残存である。1号住居跡は遺物がなく時期は不明である。2号住居跡は深さ5cmほどの住居跡である。古墳時代の土師器と平安時代の須恵器が出土したので、古墳時代以後の住居跡と思われる。幅0.6mほどの1号溝跡は遺物がなく時期不明である。なお調査区からの出土遺物は、旧石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

#### 遺物説明

##### 第30図

- 1 出土位置・注記：2住 時代時期：縄文時代後期 文様：条線文（櫛歯状工具） 備考：胎土に泥岩片目立つ
- 2 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 文様：沈線文
- 3 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期後半 文様：付加条縄文（L・R・2R）
- 4 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：口唇部縄文彫刻、櫛歯文（櫛歯4本） 備考：胎土に金雲母を含む
- 5 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（RS）
- 6 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（RZ） 備考：器外面に炭化物付着

### (2) 第21次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から150mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は3か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6m～0.8mを測る。調査の結果、住居跡が3基確認され、すべての住居跡から古墳時代の土師器小片が少量出土している。確認面からの住居跡の深さは、1号住居跡が6cm、2号住居跡が35cm、3号住居跡が18cmを測る。1・3号住居跡は覆土が浅いため、一部床面が露出していた。なお調査区からは、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

#### 遺物説明

##### 第31図

- 1 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：大型甕形土器 文様：付加条縄文（L×L） 備考：胎土に金雲母を含む
- 2 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：付加条縄文（RS）

##### 第32図

- 1 台帳：1トレ 材質：土師器 器種：杯 残存：20% 法量：口徑（13.8）、器高（4.3） 色調：外面橙～黄橙色、内面橙色。胎土：礫（白多）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部へつ削り、内面口縁～体部上位ヨコナデ、中～下位ヘラナデ。使用痕：一 備考：外面器面がやや摩滅している。
- 2 台帳：2トレ 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴部上位 法量：一色調：青灰色 胎土：礫（白微）、砂（白少） 焼成：硬質 技法等：沈線区画内に波状文。使用痕：一 備考：一

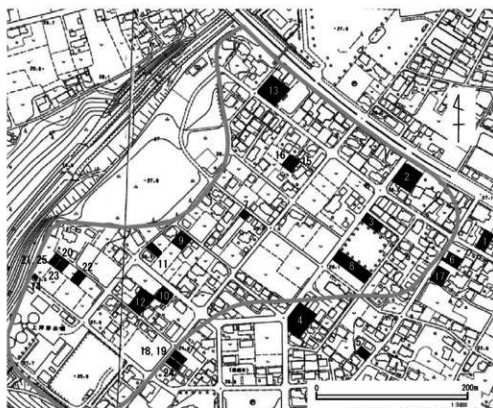
### (3) 第22次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から150mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7m～0.9mを測る。調査の結果、住居跡を4基確認した。出土遺物からみて1～3号住居跡は古墳時代、4号住居跡は弥生時代と考えられる。2・5トレンチは住居床面が露出している。6トレンチは全体が住居跡覆土中と考えられたため、掘削を途中で止めている。なお調査区からは、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

#### 遺物説明

##### 第33図

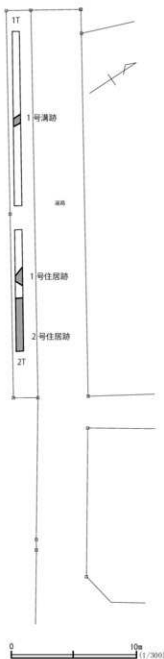
- 1 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代中期後葉 器種：大型甕形土器 文様：付加条縄文（RS）、平行沈線による波状文（半截竹管） 備考：外面に種子圧痕
- 2 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：口唇部刻み（瓦状）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 3 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：櫛歯文（櫛歯5本）、降帯（指頭押印） 備考：胎土に金雲母を含む
- 4 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：櫛歯文（櫛歯5本） 備考：胎土に金雲母を含む
- 5 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：櫛歯文（櫛歯5本）
- 6 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中・小型甕形土器 文様：櫛歯文（櫛歯4本） 備考：器外面に炭化物（煤状）付着



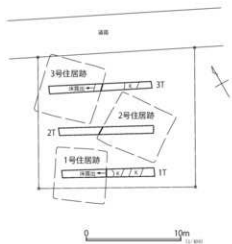
第24回 市毛上坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第6表 市毛上坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	徳山市教委	本調査	住居跡1（古墳後期）	1
2	1985	徳山市教委	本調査	住居跡1（古墳）	なし
3	1985	徳山市教委	試掘調査	なし	2
4	1985	徳山市教委	本調査	住居跡2（平安）、溝跡1（時期不明）、土坑10	2
5	1986	徳山市教委	試掘	なし	3
6	1991	徳山市教委	試掘	なし	4
7	1992	徳山市教委	本調査	溝跡1（時期不明）	5
8	1996	市教委	試掘	なし	6
9	2006	市教委	試掘	なし	7
10	2006	市教委	本調査	住居跡2（古墳後期1、平安1）、土坑1	7
11	2006	市教委	試掘	住居跡2（古墳後期1、平安1）、溝跡1（時期不明）	7
12	2012	公社	試掘	住居跡14（古墳時代分）	8
13	2013	公社	試掘	住居跡1（古墳前期）	9
14	2014	公社	試掘	住居跡1（古墳）、土坑1（時期不明）	10
15	2015	公社	試掘	住居跡1（古墳）、溝跡1（時期不明）	11
16	2016	公社	試掘	住居跡2（古墳）	12
17	2017	公社	試掘	住居跡2（古墳）	13
18	2017	公社	試掘	住居跡3（平安2、時期不明1）	13



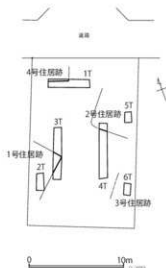
第25回 市毛上坪遺跡第20次調査区



第26回 市毛上坪遺跡第21次調査区

文献

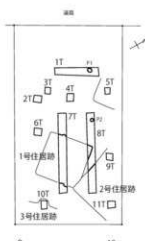
- |                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 市内遺跡発掘調査報告書（昭和55年度） | 8 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 2 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書   | 9 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 3 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書   | 10 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 4 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書    | 11 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書    | 12 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 6 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書    | 13 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 7 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書   |                           |



第27図 市毛上坪遺跡第22次調査区

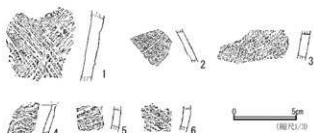


第28図 市毛上坪遺跡第23次調査区

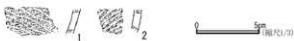


第29図 市毛上坪遺跡第24次調査区

- 7 出土位置・注記：  
1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型壺形土器 文様：付加条縄文（L×L）備考：胎土に金雲母を含む
- 8 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：中・小型壺形土器 文様：付加条縄文（R.S.、L.Z）
- 9 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式）



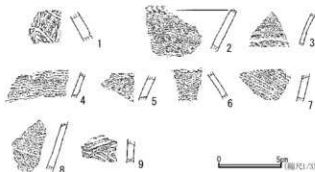
第30図 市毛上坪遺跡第20次調査区出土遺物



第31図 市毛上坪遺跡第21次調査区出土遺物 (1)



第32図 市毛上坪遺跡第21次調査区出土遺物 (2)



第33図 市毛上坪遺跡第22次調査区出土遺物



第34図 市毛上坪遺跡第23次調査区出土遺物

器種：大型壺形土器か 文様：付加条縄文（R.S.、L.Z）

#### (4) 第23次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から150mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.8m～1.2mを測る。調査の結果、古墳時代の住居跡を3基、土坑を2基確認した。ただし第1号土坑は小型の住居跡になる可能性もあろう。なお調査区から縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。

#### 遺物説明

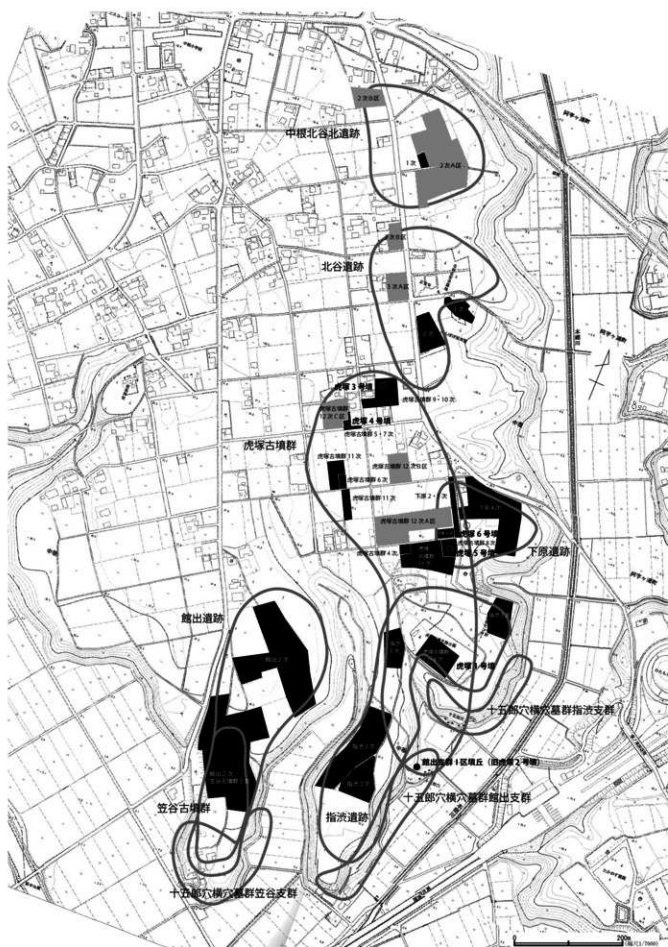
##### 第34図

- 1 出土位置・注記：10トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文（LR）
- 2 出土位置・注記：10トレ 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文（R.S）

#### (4) 第24次調査報告

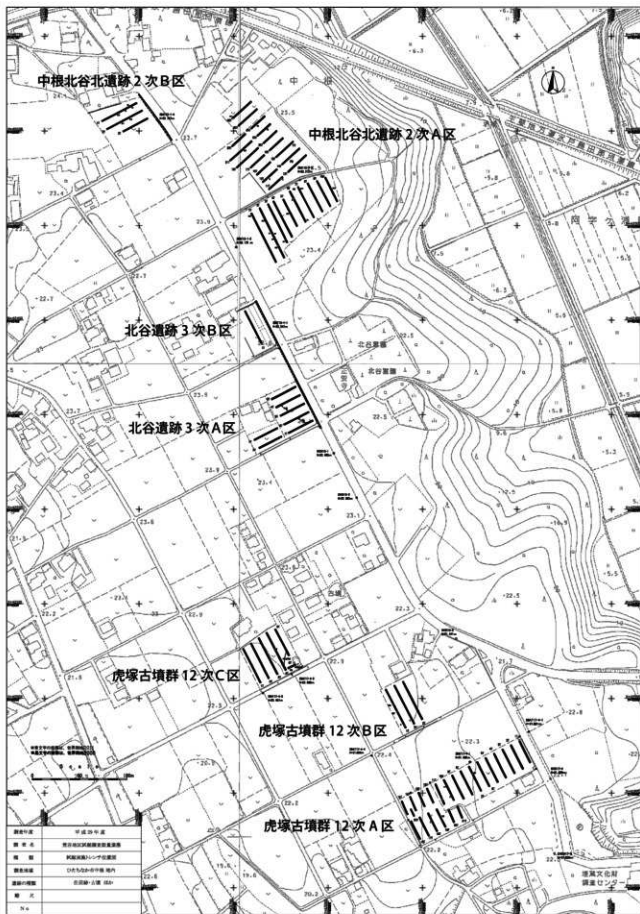
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から140mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は11か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5m～0.9mを測る。調査の結果、住居跡を4基、ピットを2基確認した。出土遺物からみて住居跡は奈良・平安時代と考えられる。

なお調査区からは、土師器、須恵器が出土している。



第35図 荒谷地区の調査地点 (黒色：過去の調査地点。灰色：今回報告の調査地点)





第36図 中根北谷北遺跡第2次・北谷遺跡第3次・虎塚古墳群第12次調査区(縮尺1/4000)

第9表 虎塚古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1973	藤山市史編纂委	本調査	虎塚1号墳(前方後円墳) 横穴式石室(彩色壁画)	1・2
2	1974	藤山市史編纂委	本調査	虎塚1号墳墳頂	2
3	1976	藤山市史編纂委	本調査	虎塚1号墳墳頂	2
4	1984	藤山市教委	試掘	なし	3
5	1988	調査会	本調査	虎塚4号墳(方墳)石室、埴溝	4
6	1996	藤山市教委	試掘	なし	5
7	1987	藤山市教委	本調査	虎塚4号墳石室、埴溝	4
8	1992	藤山市教委	試掘	虎塚5号墳石室、埴溝	6
9	1999	市教委	試掘	虎塚3号墳墳頂	7
10	1999	市教委	試掘	虎塚3号墳墳頂	7
11	2017	公社	試掘	虎塚5号墳墳頂	8

文献

- 藤山市史編纂委古墳第一次発掘調査概要
- 藤山市史編纂1号塚古墳調査
- 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書
- 虎塚古墳群第4号墳
- 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第10表 北谷遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1987	藤山市教委	試掘	なし	1
2	1989	藤山市教委	本調査	柱石跡1(縄文)	2

文献

- 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書
- 北谷遺跡群発掘調査報告書

第11表 中根北谷北遺跡調査一覧

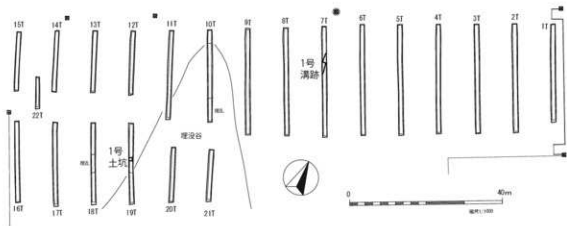
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2002	市教委	試掘	ピット	1

文献

- 平成14年度市内遺跡発掘調査報告書



第38図 虎塚古墳群第12次調査区(B区)



第37図 虎塚古墳群第12次調査区(A区)

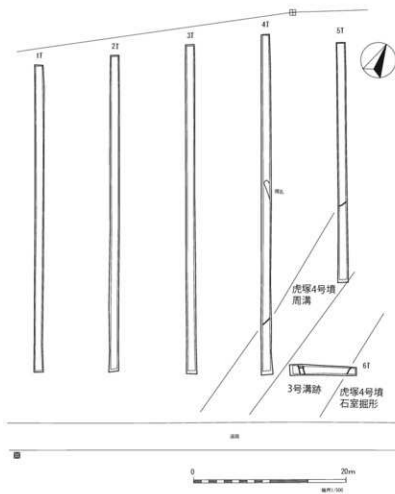
## 8 虎塚古墳群, 北谷遺跡, 中根北谷北遺跡

### (1) 虎塚古墳群第12次・北谷遺跡第3次・中根北谷北遺跡第2次調査報告

ひたちなか市中根に所在する荒谷地区は、国史跡に指

定されている虎塚古墳(1号墳)を有する虎塚古墳群や、笠谷古墳群などの重要な遺跡が位置する地域である。当地に畑地帯総合整備事業が実施されることとなったため、平成27年度から平成29年度にかけて対象地の試掘調査が実施されることとなった。

平成29年度は虎塚古墳群, 北谷遺跡, 中根北谷北遺



第39図 虎塚古墳群第12次調査区(C区)



第40図 虎塚古墳群第12次調査区出土遺物

跡が対象となり、約3万1千m<sup>2</sup>ほどの土地でトレンチによる試掘調査が実施された。

調査地は、本郷川右岸台地上に位置し、虎塚古墳群は緩やかな起伏を持つ地形であるが、北谷遺跡と中根北谷北遺跡は平坦な地形を呈する。調査地は畑地である。調査は対象地に68か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは、0.3～1.3 mを測る。以下、遺跡ごとに調査結果を記述する。

**虎塚古墳群第12次調査** 調査の結果、虎塚4号墳(方墳)の周溝と石室掘形の一部を確認したほか、溝跡2条および土坑2基が確認された。溝跡および土坑からの遺物はなく、時期は不明である。調査区からの遺物は、土師器片が少量出土している。



第41図 虎塚4号墳周溝の確認状況

#### 遺物説明

##### 第40図

1 出土位置・注記：C区1トレンチ 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文 (RL)

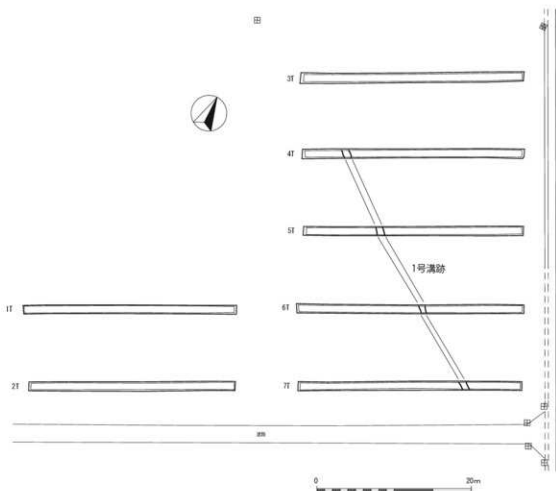
**北谷遺跡第3次調査** 調査の結果、溝跡1条を確認した。溝跡からの出土遺物はなく、時期は不明である。調査区からの遺物は、鉄釘および須恵器・土師器片が少量出土している。

**中根北谷北遺跡第2次調査** 竪穴住居跡10基、溝跡1条、土坑2基、ピット11基を確認した。住居跡は、2・3・6・7～9号住居跡が出土土器からみて平安時代と思われる。1・4・5・10号住居跡は出土土器がなく時期不明である。溝跡および土坑は出土遺物がなく時期不明である。調査区からの遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器の小片が少量出土している。なお1号住居跡から鉄鍔頸部破片が出土している。

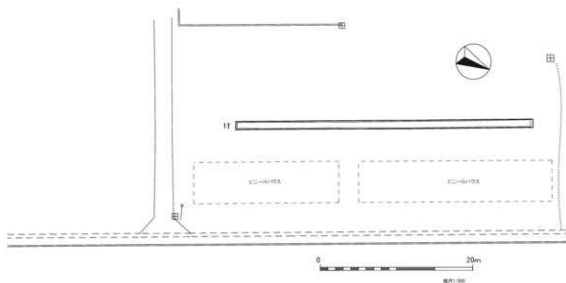
#### 遺物説明

##### 第46図

- 1 出土位置・注記：A区表探 時代時期：縄文時代中期(加賀利E式) 文様：口唇に凹線文、単節斜縄文 (LR)
- 2 出土位置・注記：A区表探 時代時期：縄文時代中期(加賀利E式) 文様：隆線文・凹線文、単節斜縄文 (LR)
- 3 出土位置・注記：A区10トレンチ 時代時期：縄文時代中期(加賀利E式) 文様：沈線文、単節斜縄文 (RL)
- 4 出土位置・注記：A区22トレンチ 時代時期：縄文時代中期(加賀利E式) 文様：沈線文、単節斜縄文 (RL)、磨消縄文
- 5 出土位置・注記：A区17トレンチ 時代時期：縄文時代中期(加賀利E式)



第 42 図 北谷遺跡第 3 次調査区 (A 区)



第 43 図 北谷遺跡第 3 次調査区 (B 区)

式) 文様: 比線文, 単節斜縄文 (LR)

6 出土位置・注記: A 区表探 時代時期: 縄文時代中期 文様: 単節斜縄文 (RL)

7 出土位置・注記: A 区 15 トレ 時代時期: 縄文時代中期 文様: 単節斜縄文 (LR) 備考: 胎土に泥岩片目立つ

8 出土位置・注記: A 区 9 トレ 時代時期: 縄文時代中期 法量: 最

大径 126 mm (残存率 21% の部分から推定) 文様: 単節斜縄文 (RL)

備考: 器内面に炭化物付着

## 9 高野富士山遺跡

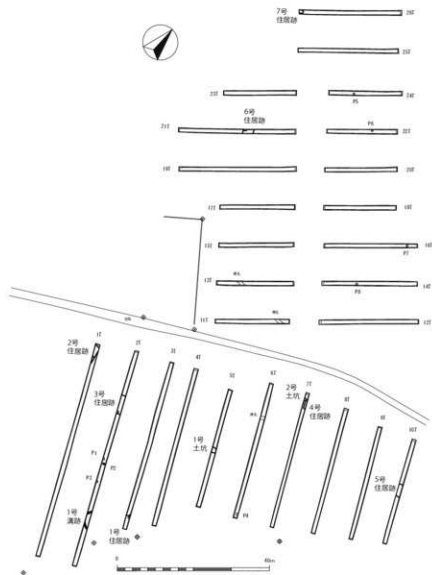
### (1) 第12次調査報告

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7m～0.8mを測る。調査の結果、一辺約11.5mを測る古墳時代後期と考えられる大型住居跡が確認された。なお6トレンチで、竈材と考えられる白色粘土と9世紀の須恵器が出土していることからみて、平安時代の住居跡の重複が考えられるが、その形状等は不明である。なお調査区からは、土師器、須恵器が出土している。

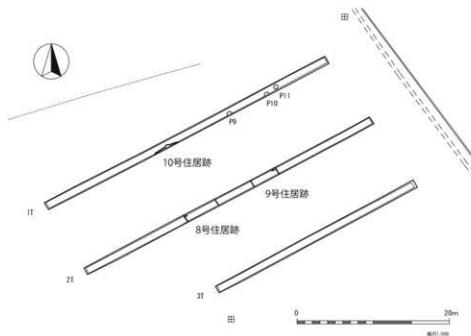
#### 遺物説明

##### 第49図

1 出土位置:6トレ 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部40%、体部下半20% 法量:底径(6.5) 色調:灰色 胎土:雑(灰多、白多)、骨針少 特徴:底部外面ナデヘラ記号。焼成硬質。外面底部周縁摩滅。備考:木葉下窯産か



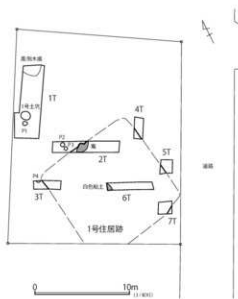
第44図 中根北谷北遺跡第2次調査区 (A区)



第45図 中根北谷北遺跡第2次調査区 (B区)



第46図 中根北谷北道路第2次調査区出土遺物



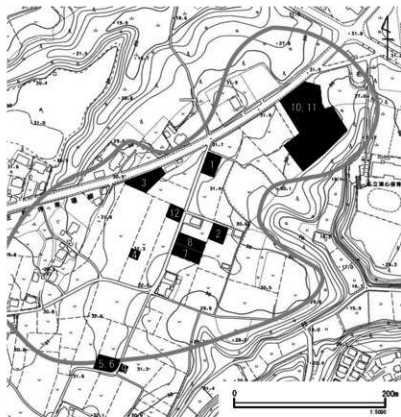
第48図 高野富士山道跡第12次調査区



第49図 高野富士山道跡第12次調査区出土遺物

文献

- 1 昭和57年度市内道跡発掘調査報告書
- 2 平成元年度西田市内道跡発掘調査報告書
- 3 平成13年度市内道跡発掘調査報告書
- 4 平成19年度市内道跡発掘調査報告書
- 5 平成22年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 6 平成25年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 7 平成27年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 8 平成29年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 9 高野富士山道跡



第47図 高野富士山道跡の調査地点(数字は調査次数)

第12表 高野富士山道跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	藤山事務所	試掘	なし	1
2	1989	藤山事務所	試掘	住居跡1(古墳)	2
3	2001	市商委	本調査	土坑跡1(古墳)、住居跡1(古墳)	3
4	2007	市商委	試掘	なし	4
5	2010	公社	試掘	住居跡3(平家)、土坑2	5
6	2010	公社	本調査	住居跡1(平家)	5
7	2013	公社	試掘	なし	6
8	2015	公社	試掘	なし	7
9	2017	公社	試掘	なし	8
10	2017	公社	試掘	住居跡3(古墳～奈良3)、溝1	8
11	2017	長野考古学研究所	本調査	住居跡3(奈良3・平家)、土坑1、溝1	9

## 10 磯合古墳群

### (1) 第4次調査報告

調査地は、海岸に面する台地縁辺から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は11か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認までの深さは0.5m～0.8mを測る。

調査の結果、古墳の周溝と石室掘形を確認した。古墳は部分的な周溝確認のため形状は不明瞭であるが、おそらく一辺約17m程の方形になる可能性がある。またその位置からみて石室



第50図 磯合古墳群の調査地点(数字は調査次数)

第13表 磯合古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1995	市教委	試掘	なし	1
2	2009	公社	試掘	なし	2
3	2016	公社	試掘	円墳1, 溝1	3

文献

- 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



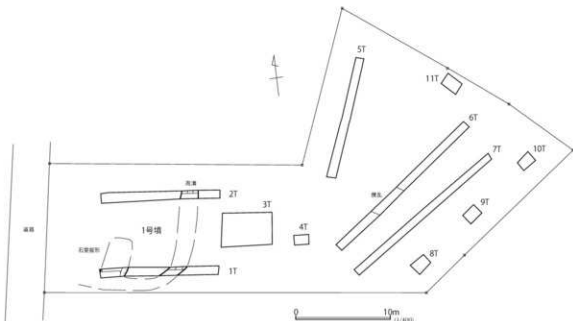
第52図 磯合古墳群第4次調査区

1号墳周溝(1トレンチ)



第53図 磯合古墳群第4次調査区

1号墳石室掘形(1トレンチ)



第51図 磯合古墳群第4次調査区

掘形ではないかと思われた土坑の一部を、確認面から62cmほど掘り下げた。しかし底面は確認できなかった。その土坑は10cm以下の礫が壁際近くに多く認められ

ており、そうした点からも石室掘形の一部ではないかと考えられた。なお調査区からの遺物は、石室掘形から土器器小片が1点出土したのみであった。

調査対象地である畑地の周囲には、古墳の石室石材と思われる人頭大の石が散乱している。『平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』でも記したが、耕作の邪魔になる石室石材が、過去に掘り出されたことが考えられる。

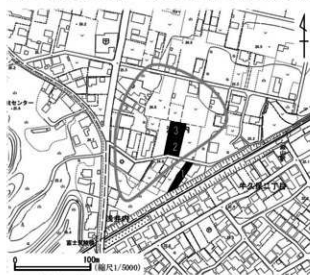
## 11 浅井内遺跡

### (1) 第 2 次調査報告

調査地は、那珂川河口部の、現在那珂湊の市街地がある低地から北東に入り込む谷の谷頭から 100 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m ～ 1.0 m を測る。調査の結果、幅 2 m を測り屈曲している溝跡を 1 条確認した。溝跡は深さ 25cm ～ 43cm ほどであった。溝跡からの遺物はなく時期は不明である。なお調査区から遺物は出土しなかった。

### (2) 第 3 次調査報告

調査地は、第 2 次調査区の隣接地であり平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 11 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m ～ 1.0 m を測る。調査の結果、遺



第 54 図 浅井内遺跡の調査地点

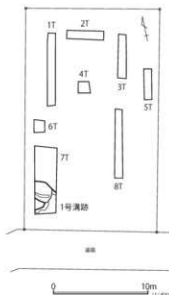
第 14 表 浅井内遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2004	市教委	探検	土坑 2	1

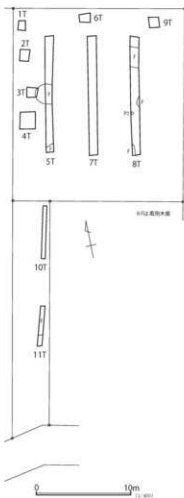
文献

1 平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書

構は時期不明のピットを 1 基確認したのみである。なお風倒木痕を 6 か所確認している。調査区から遺物は出土しなかった。



第 55 図 浅井内遺跡第 2 次調査区



第 56 図 浅井内遺跡第 3 次調査区



## 12 天王前遺跡

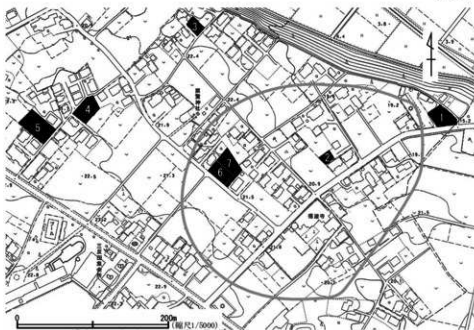
### (1) 第6次調査報告

調査地は、中丸川低地から190mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3m～0.9mを測る。調査の結果、溝跡2条、土坑4基が確認された。溝跡は、1号溝跡が確認面幅0.7m、2号溝跡が確認面幅0.3mを測る。土坑は、円形が3基（1A・B号土坑、3号土坑）、方形が1基（2号土坑）である。1A・B号土坑から内耳土銅口縁部片と陶器片が出土していることから、中近世の土坑となる可能性がある。他の遺構からは出土遺物がないため、時期は不明である。

調査区からは、縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器が出土している。

#### 遺物説明

第59図



第57図 天王前遺跡の調査地点

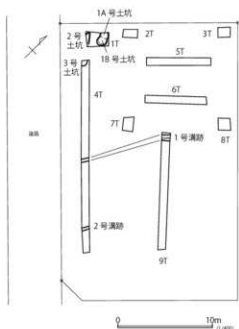
第15表 天王前遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献	備考
1	1984	豊山市委	試掘	(日記録1(平安))	なし	
2	1985	豊山市委	試掘	溝跡2、土坑1	3	
3	1992	豊山市委	試掘	なし	2	実跡は、反山前遺跡の範囲内
4	1999	市教委	試掘	明穴区遺構	なし	実跡は、権保内江野の範囲内
5	2000	市教委	試掘	集石遺構、土坑	3	実跡は権保内江野の範囲内

文献

- 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成12年度市内遺跡発掘調査報告書

- 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：隆帯 備考：器表面に後押の傷多い
- 出土位置・注記：1トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：無彫斜縄文（L）もしくは反逆り縄文（LL）



第58図 天王前遺跡第6次調査区



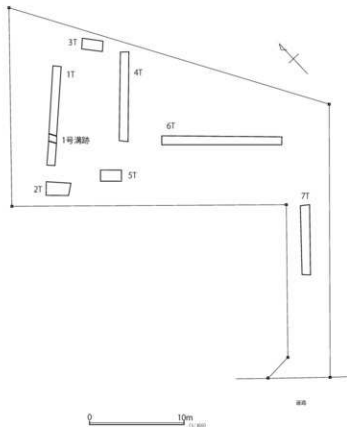
第59図 天王前遺跡第6次調査区  
出土遺物

### 13 向野 A 遺跡

#### (1) 第 5 次調査報告

調査地は、本郷川から北東方向に延びる小支谷の奥部に所在する馬渡植輪製作遺跡の北 200 m ほどに位置し、平坦な地形を呈する。調査時は林地であった。調査は 4 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m ~ 0.8 m を測る。調査の結果、溝跡 1 条が確認された。溝跡は、1 号溝跡が確認面幅 2.0m、深さ 0.5 m を測る。出土遺物がないため、時期は不明である。なお調査区からも遺物は出土していない。

ところで、今回確認された 1 号溝跡であるが、現地で溝跡から南西方向を見ると、溝跡の延長方向に向けて、ややくぼんだ地形が続いていることが確認される。その溝跡の位置は、「鎌倉街道」と地元伝承されていたという（飛田英世 2018「ひたちなか市の鎌倉街道」『常総中世史研究』第 6 号、茨城大学中世史研究会）中世の古道の推定ライン上にあり、おそらくその古道の側溝



第 60 図 天王前遺跡第 7 次調査区

#### (2) 第 7 次調査報告

調査地は、中丸川低地から 180 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 m ~ 0.4 m を測る。調査の結果、溝跡 1 条が確認された。溝跡は出土遺物がないため時期は不明である。なお調査区から縄文土器片が出土した。

#### 遺物説明

第 61 図

1 出土位置・注記：1トレ 時代時期：縄文時代後期前葉 備考：胎土に骨針を含む



第 61 図 天王前遺跡第 7 次調査区出土遺物



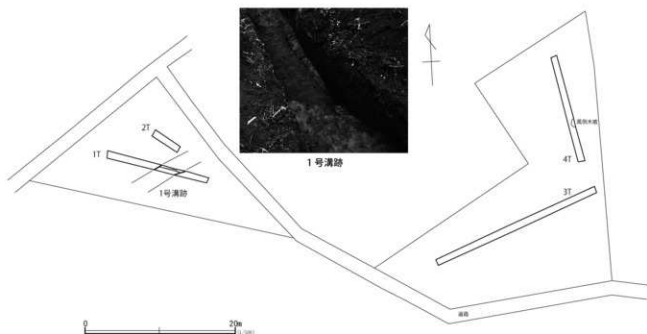
第 62 図 向野 A 遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 16 表 向野 A 遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	溝跡	文献
1	1990	公社	本調査	笠倉跡（縄文）、粘土段部坑 2（弥生）、溝 1	1・5
2	2002	公社	本調査	なし	2・5
3	2003	公社	本調査	陥穴 1（縄文）、溝 2	3・5
4	2004	公社	本調査	陥穴 1（縄文）、住居跡 1（古墳）、溝 2（中・近世）	4・5

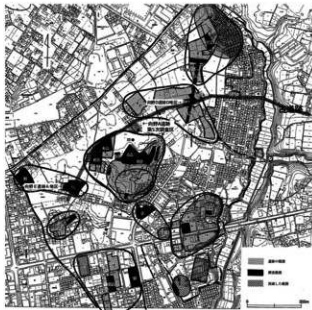
文献

- 1 向野 I
- 2 向野 V
- 3 向野 VI
- 4 向野 VII
- 5 向野 VIII

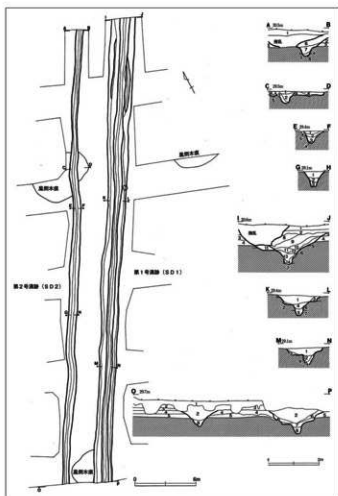


第63図 向野A遺跡第5次調査区

になるのではないと思われる。向野遺跡群における過去の調査でも、古道ライン上にあたる、向野D遺跡D地区、向野E遺跡A地区などで、並行する2本の溝跡が発掘されており（白石真理ほか2007『向野遺跡群』）、今回確認された1号溝跡もそうした溝跡の一部となる可能性が高い。つまり、飛田氏が推定された古道跡に沿って道路側溝が遺存しているといえよう。古道跡の存続時期は中世から近世にかけてと考えられているが、現状では不明瞭である。ただし、向野D遺跡D地区4B号溝跡出土の瓦質土器や陶器などは参考になる資料であろう。



第64図 向野地区の古道跡（『向野遺跡群』第2図を引用・加筆）



第65図 向野E遺跡A地区の並行する溝跡  
（古道跡か？、『向野遺跡群』第168図より引用）

第17表 黒袴遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1965	不明	本調査	道路1, 土坑1	なし
2	1983	豊山市委	本調査	住居3 (古墳前附1, 平安1), 土坑3	1
3	2008	公社	試験	溝1	2
4	2015	公社	試験	住居1 (古墳1), 溝1	3
5	2016	公社	試験	住居3 (弥生1, 古墳2), 土坑1	4
6	2017	公社	試験	なし	なし

文献

- 1 昭和38年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第66図 黒袴遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

## 14 黒袴遺跡

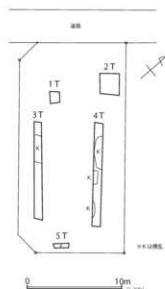
### (1) 第7次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷から120mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は砕石敷きの駐車場であった。調査は5か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7m～1.1mを測る。調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。

## 15 峪遺跡

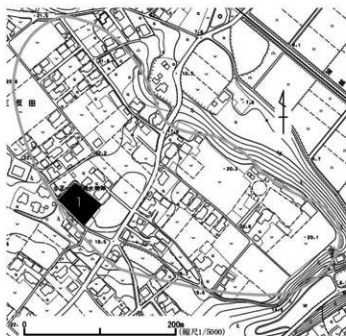
### (1) 第1次調査報告

調査地は、中丸川低地から南西方向に入り込む谷から、



第67図 黒袴遺跡第7次調査区

北西方向に延びる浅い小支谷の奥部に位置し、南方へ緩く傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は13か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.1m～0.8mを測る。調査の結果、溝1条、土坑8基、ピット7基が確認された。溝跡は幅15cmほどで、出土遺物はなく時期は不明である。土坑は8基確認した。1号土坑のみ須恵器小片が1点出土しているが、これは混入の可能性もあるため、土坑は全て時期不明である。2号土坑は円形に深く落ち込む部分があり、井戸跡と考えられる。井戸の深さはボーリングステッキによる確認で深さ1.5m以上あることがわかった。1・3・7・8号土坑の底面は硬化していた。調査区からは、縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器の小片が少量ずつ出土している。

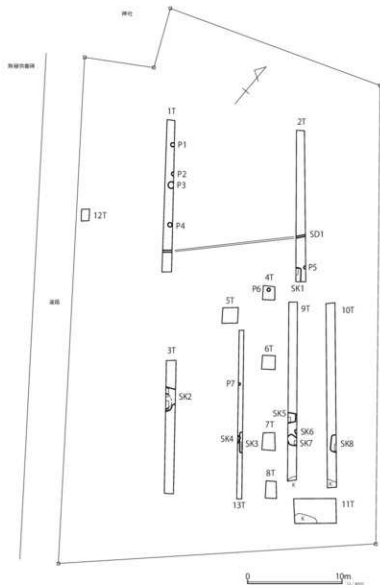


第68図 裾遺跡の調査地点(数字は調査回数)



第70図 裾遺跡の無縁供養碑

なお、調査区の北東方向に隣接する場所に、昭和16年8月建立の無縁供養碑が存在する。もしかすると当地周辺で人骨の出土があったのかもしれない。今回検出の遺構群が関係するのだろうか。参考資料として写真を掲載しておく。



第69図 裾遺跡第1次調査区

## 16 市毛本郷坪遺跡

### (1) 第9次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方へ入り込む小さな谷(現在は国道6号線となる。)を望む台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は3か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4m～0.7mを測る。調査の結果、住居跡は11基確認された。出土遺物から、2・5・10号住居跡が古墳時代、6号住居跡が平安時代と思われる。このほかの住居跡は出土遺物がなく時期は不明である。また、幅1.5mほどの溝が1条確認されており、内耳土器の出土からみて中世の溝になる可能性が高い。土坑は2基確認されたが、遺物がなく時期は不明である。

調査区からは、縄文土器、土師器、須恵器、中世土器が出土している。

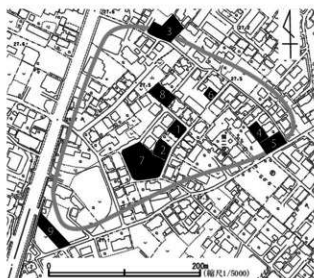
### 遺物説明

#### 第72図

1 出土位置・注記:表探 時代時期:縄文時代中・後期 文様:単節斜縄文(RL)

#### 第73図

1 出土位置:2トレ1溝 材質:土師質 器種:紡錘車 残存:一部欠失 法量:径5.4、高2.0、重量48.5g 色調:白褐色



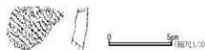
第71図 市毛本郷坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第18表 市毛本郷坪遺跡調査一覧

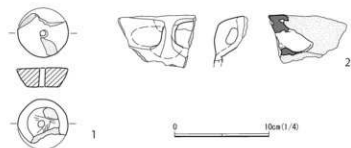
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	勝山市教委	本調査	住居2（古堀1、平安1）	1
2	1980	勝山市教委	本調査	住居11（古堀）、土坑3、溝1	1
3	1987	勝山市教委	本調査	住居3（平安）、土坑2	2
4	1989	勝山市教委	本調査	住居1（古堀）	3
5	1990	勝山市教委	本調査	住居1（奈良）	4
6	1994	市教委	本調査	溝1	5
7	2016	公社	試掘	住居跡10（奈良・平安）、土坑3、溝1	6
8	2016	公社	試掘	住居跡4（奈良・平安）	6

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成2年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成6年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



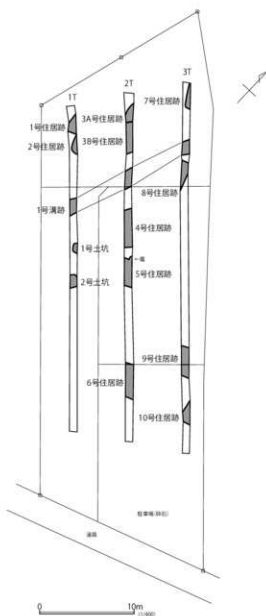
第72図 市毛本郷坪遺跡第9次調査区出土遺物（1）



第73図 市毛本郷坪遺跡第9次調査区出土遺物（2）

一部黒色 胎土：砂（角閃石類、透、灰） 技法等：全体的に厚減するが、上面の一部にミガキ面残る。下面に薄く痕跡あり。

2 出土位置：1溝 材質：土師器 器種：内耳土鍋 残存：把手部 分量：  
一色調：内面橙褐色、暗褐色。外面黒色。胎土：砂（透多、角閃石類多）、骨針少 技法等：外面一部厚付着

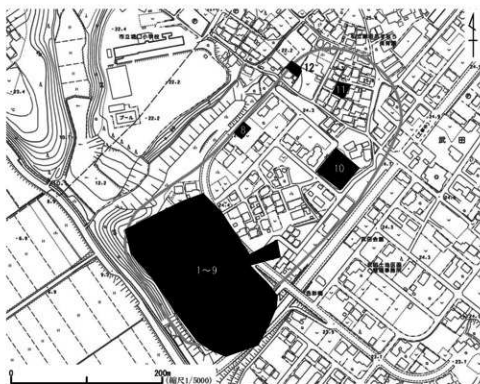


第74図 市毛本郷坪遺跡第9次調査区

## 17 西塙遺跡

### (1) 第12次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷の最奥部に位置し、北西方向に傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は1か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4m～0.5mを測る。調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。



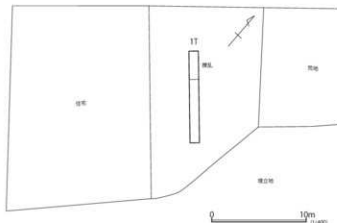
第 75 図 西埼玉道跡の調査地点 (数字は調査次数)

第 19 表 武田西埼玉道跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1986	公社	試掘	住居 8	1
2	1987	熊田市の若委	本調査	住居 3, 土坑 1, 溝 1	2
3	1989	公社	本調査	住居 6	3
4	1990	公社	本調査	住居 72, 土坑 18, 溝 4	4
5	1992	公社	本調査	住居 108, 土坑 115, 溝 6, 遺 4, 土壇 2	5
6	1993	公社	本調査	住居 86, 竪立柱 3, 溝 10, 遺 1	6
7	1994	公社	本調査	住居 86, 土坑 56, 溝 4, 土壇 6	7
8	1995	公社	本調査	住居跡 41, 土坑 146, 溝 5, 土壇 8, 地下式竈 7, 井戸 4, 陥穴 9, 近世塚 1	8
9	1997	市教委	本調査	住居跡 10	9
10	2004	公社	本調査	住居跡 15, 竪立柱 1 土坑 11, 溝 1	10
11	2006	市教委	試掘	なし	11

文献

- 1 武田 I
- 2 昭和 62 年度市内道跡発掘調査報告書
- 3 武田 IV
- 4 武田 IV
- 5 武田 IV
- 6 武田 VII
- 7 武田 VII
- 8 武田 IX
- 9 平成 9 年度市内道跡発掘調査報告書
- 10 武田道跡群 中世・近世・近代・現代編, 武田西埼玉道跡 2004 年度調査報告
- 11 平成 18 年度市内道跡発掘調査報告書



第 76 図 西埼玉道跡第 12 次調査区

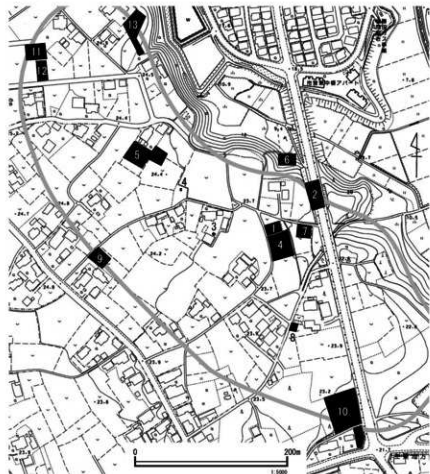
## 18 君ヶ台遺跡

### (1) 第 12 次調査報告

調査地は、本郷川低地から北西方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺から 130 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は①区・②区それぞれに 10 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ~ 0.6 m を測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。

## (2) 第13次調査報告

調査地は、本郷川低地から北西方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は更地および敷地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～1.3mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



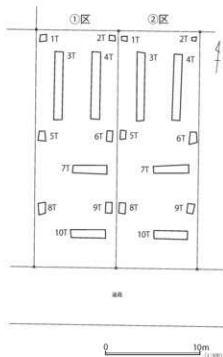
第77図 君ヶ台通跡の調査地点（数字は調査次数）

第20表 君ヶ台通跡調査一覧

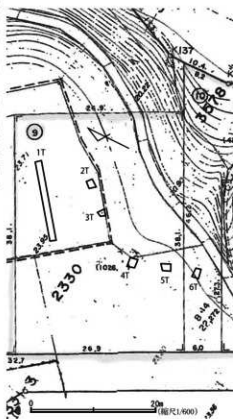
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1951	勝田町郷土史編纂委員会	本調査	土坑群、住居、溝1	—
2	1979	勝田市教委	本調査	住居2、土坑群、貝塚	1
3	1994	市教委	本調査	土坑3、住居2	2
4	1999	市教委	試掘	土坑1	3
5	2001	市教委	試掘	住居1、土坑1	4
6	2003	市教委	本調査	貝塚1	5
7	2006	通跡調査会	本調査	住居1、溝1	10
8	2006	市教委	試掘	なし	6
9	2010	公社	試掘	土坑2、溝1	7
10	2015	公社	試掘	なし	8
11	2017	公社	試掘	住居1	9

文献

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1 君ヶ台通跡調査報告書        | 6 平成18年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書 |
| 2 平成6年度市内道跡発掘調査報告書  | 7 平成22年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書 |
| 3 平成10年度市内道跡発掘調査報告書 | 8 平成27年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書 |
| 4 平成13年度市内道跡発掘調査報告書 | 9 平成29年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書 |
| 5 平成15年度市内道跡発掘調査報告書 | 10 君ヶ台(第7次)              |



第78図 君ヶ台通跡第12次調査区



第79図 君ヶ台通跡第13次調査区



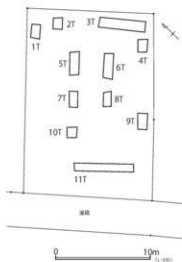
## 19 原の寺遺跡

### (1) 第1次調査報告

調査地は、新川から南方向に入り込む谷から100mほど西に離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は11か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第80図 原の寺遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第81図 原の寺遺跡第1次調査区

## 20 堀口遺跡

### (1) 第29次調査報告

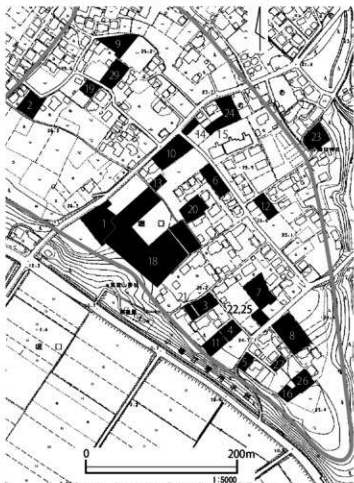
調査地は、那珂川を望む台地縁辺から200mほど離れた地点に位置し、北東に緩やかに傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は4か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3m～0.6mを測る。調査の結果、住居跡を8基確認した。出土遺物からみて、住居跡は古墳時代3基（1～3住）、奈良・平安時代4基（4～6・8住）、時期不明1基（7住）と推定される。なお調査区からは、土師器、須恵器が出土している。

### 遺物説明

#### 第83図

1 出土位置：8住 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部(6.3) 色調：灰色 胎土：礫(灰少)、砂(白)、骨針少 技法等：回転ヘラ切り後底部外面ナデ、焼成硬質。備考：木葉下窟産か

2 出土位置：4住 材質：須恵器 器種：有台盤? 残存：底部20% 法量：高台径(8.6) 色調：灰色 胎土：礫(灰少、白少)、砂(白、白透少) 技法等：底部外面回転ヘラ削り。内面高台継首直、焼成硬質。高台接地面外側が摩滅。内面やや摩滅。備考：木葉下窟産か



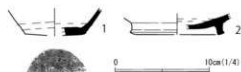
第82図 堀口遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第21表 堀口遺跡調査一覧

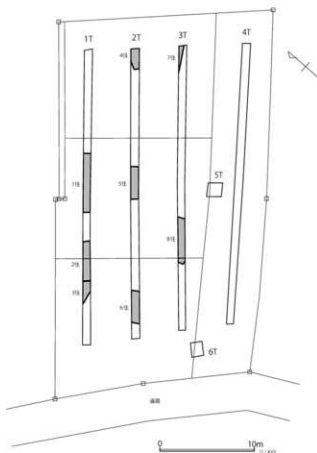
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	枚数
1	1979	藤田市教委	本調査	住居17(1号住居、古墳跡2、古墳跡2、古墳4、平安3、堀跡不明)	1
2	1979	藤田市教委	本調査	住居2(平安)	2
3	1983	藤田市教委	本調査	住居3(古墳中層1、古墳跡1、平安4)	3
4	1984	藤田市教委	本調査	住居2(古墳1、堀跡不明)	4
5	1985	藤田市教委	本調査	住居4(古墳中層1、平安2、堀跡不明)	5
6	1992	藤田市教委	本調査	住居2(古墳中層1、古墳1)	6
7	1993	藤田市教委	本調査	住居8(1号住居、古墳跡4、古墳跡1、平安4)	7
8	1996	市教委	本調査	住居6(古墳跡上、古墳跡中、古墳1、平安4)	8
9	2006	市教委	試掘	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居7(古墳跡上、古墳跡1、古墳1、平安4)	10
11	2008	公社	試掘	住居2(古墳・平安1、堀跡不明)、溝1	11
12	2008	公社	試掘	住居25(古墳中層1、古墳跡・古墳・平安2、平安14)、土坑3(古墳上、堀跡不明)、溝1	11
13	2013	公社	試掘	住居2(古墳)	12
14	2013	公社	試掘	住居2(古墳跡1、平安1)、溝2(堀跡不明)	12
15	2013	公社	本調査	住居4(古墳跡1、古墳跡1、平安2)、溝1	13
16	2014	公社	試掘	住居1(平安)、堀1(堀跡不明)	13
17	2014	公社	試掘	住居16(古墳上、古墳4、堀跡不明(1)、土坑2(堀跡不明))	14
18	2015	公社	試掘	住居120(古墳上、古墳跡2、古墳5、平安5、堀跡不明(2)、土坑14、土堀跡2、溝2)	14
19	2015	公社	試掘	住居1(堀跡不明)	14
20	2015	公社	試掘	住居5(古墳)、土坑5(堀跡不明)	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居6(古墳上、平安2、堀跡不明)	15
23	2015	公社	試掘	住居1(古墳)	15
24	2015	公社	試掘	住居2(堀跡不明)	15
25	2016	公社	本調査	住居9(古墳上、古墳4、平安3)	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	関東文化財 財団会	本調査	—	—
28	2016	公社	試掘	なし	15

## 文献

- 1 茨城県藤田市堀口遺跡発掘調査報告書 2 市内遺跡発掘調査報告書(昭和54年度)  
 3 市内遺跡発掘調査報告書(昭和58年度) 4 市内遺跡発掘調査報告書(昭和59年度)  
 5 市内遺跡発掘調査報告書(昭和60年度) 6 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書  
 7 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書 8 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書  
 9 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書 10 堀口遺跡発掘調査報告書  
 11 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  
 12 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  
 13 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  
 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  
 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第83図 堀口遺跡第29次調査区出土遺物



第84図 堀口遺跡第29次調査区

## 21 市毛下坪遺跡

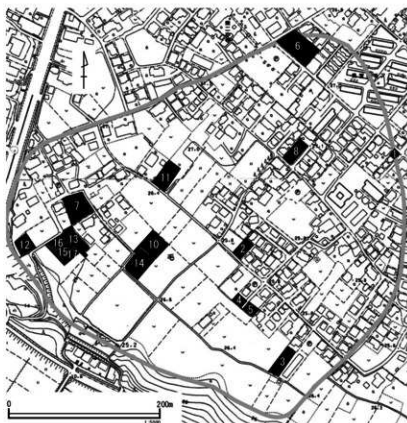
## (1) 第14次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認までの深さは0.6m～0.9mを測る。調査の結果、住居跡を6基確認した。住居跡はトレンチ出土遺物からみて、すべて平安時代かと思われる。このほか、溝1条、土坑3基を確認したが遺物がなく時期は不明である。なお調査区からは、土師器、須恵器が出土している。

## 遺物説明

## 第87図

- 1 出土位置:3トレ 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部30% 法量:底径(6.6) 色調:暗灰色 胎土:雑(白多、灰少、白透少)、砂(白多、灰少)、骨針少 技法等:回転ヘラ切り後底部外面ナデ。焼成硬質。備考:木葉下窯産



第 85 図 市毛下坪遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 22 表 市毛下坪遺跡調査一覧

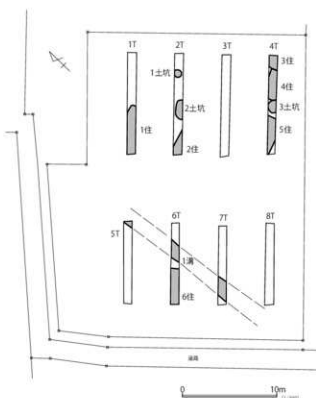
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	藤岡市教委	本調査	土坑 1 (時期不明)	1
2	1987	藤岡市教委	本調査	溝 1 (9 世紀)	2
3	1987	藤岡市教委	本調査	住居 1 (8 世紀)、 溝 2 (時期不明)	2
4	1989	藤岡市教委	本調査	住居 1 (9 世紀)、 溝 1 (時期不明)	3
5	1989	藤岡市教委	本調査	溝 2 (時期不明)	3
6	1989	藤岡市教委	本調査	住居 2 (8 世紀)、 溝 2 (時期不明)	3
7	1991	藤岡市教委	本調査	住居 3 (古墳後期 2、 9 世紀 1)	4
8	1993	藤岡市教委	試験調査	なし	5
9	2006	市教委	試験調査	なし	—
10	2012	公社	試験	住居 3 (9 世紀)、溝 3、 土坑 1・ピット 5 (時期不明)	6
11	2014	公社	試験	住居 4 (平安)、溝 1	7
12	2016	公社	試験	土坑 4 (近世 2、 時期不明 2)	8
13	2017	公社	試験	住居 4 (古墳 3、 平安 1)	9

文献

- 1 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成元年度藤岡市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 24 年度むたちなか小内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 26 年度むたちなか小内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 28 年度むたちなか小内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 29 年度むたちなか小内遺跡発掘調査報告書



第 87 図 市毛下坪遺跡第 14 次調査区出土遺物

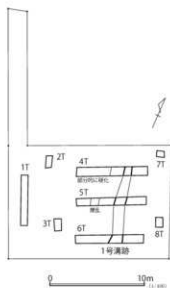


第 86 図 市毛下坪遺跡第 14 次調査区

## (2) 第 15 次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から 50 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地で

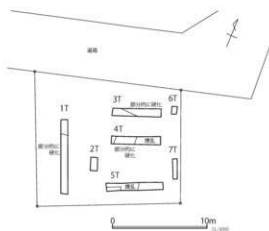
あった。調査は 8 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.2 ~ 0.6 m を測る。調査の結果、調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は溝跡を 1 条確認した。溝跡は出土遺物がなく時期は不明である。また、4 トレンチの確認面が所々硬化していた。性格は不明であるが、古墳時代の土器器が出土していることから、当該期の住居跡であった可能性もあろう。



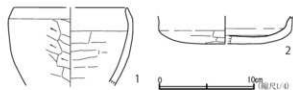
第88図 市毛下坪遺跡第15次調査区



第89図 市毛下坪遺跡第15次調査区出土遺物



第90図 市毛下坪遺跡第16次調査区

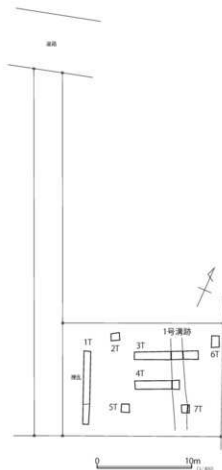


第91図 市毛下坪遺跡第16次調査区出土遺物

### 遺物説明

#### 第89図

1 台帳：4トレ1住 材質：土師器 器種：杯 残存：体部100% 法量：器高(3.7) 色調：外面にふい橙～褐～暗褐色。内面にふい橙色。胎土：砂(白微)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面上～中位ヘラ



第92図 市毛下坪遺跡第17次調査区

削り後ヘラナデ・ヘラミガキ、下位ヘラ削り。内面上位ヨコナデ、中～下位ヘラナデ、ヘラミガキ。使用痕：一 備考：口縁部を欠いて使用している。

### (3) 第16次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から50mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.1～0.5mを測る。調査の結果、調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は確認されなかった。1・3・4トレンチの確認面が所々硬化していたが、性格は不明である。調査区からは、土師器、須恵器が出土している。

### 遺物説明

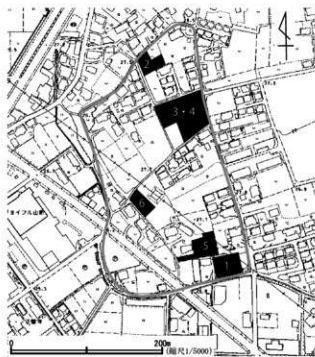
#### 第91図

1 台帳：2トレ 材質：土師器 器種：鉢 残存：口縁～胴部20% 法量：口径(11.8)、器高(8.3) 色調：外面橙～黒色。内面粉色。胎土：礫(白微)、砂(白多、透多、赤微) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。使用痕：一 備考：一

2 台帳:2トレ 材質:土師器 器種:杯 残存:60% 法量:器高(2.9)  
 色調:外面浅黄橙~褐灰色。内面黒色。 胎土:砂(白多、透多)、骨針  
 含む 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。内面  
 口縁~体部中位ヨコナデ、下位ヘラナデ。内面に黒色処理。 使用痕:一  
 備考:外面器面が摩滅している。

### (3) 第17次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から50mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5~0.7mを測る。調査の結果、調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は溝跡を1条確認した。溝跡は出土遺物がなく時期は不明である。調査区からは、土師器、須恵器が出土している。



第93図 松原遺跡の調査地点(数字は調査次数)

## 22 松原遺跡

### (1) 第6次調査報告

調査地は、中丸川低地から50mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は更地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4m~0.7mを測る。調査の結果、遺構は確認されなかった。調査区からは、縄文土器が出土している。

#### 遺物説明

##### 第95図

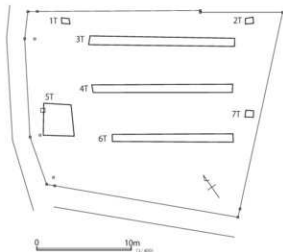
- 1 出土位置・注記:3トレ 時代時期:縄文時代中期(加曾利E式)  
 文様:除線文、単節斜縄文(RL)
- 2 出土位置・注記:5トレ 時代時期:縄文時代中期(加曾利E式)  
 文様:除線文 備考:器内面に炭化物付着
- 3 出土位置・注記:5トレ 時代時期:縄文時代中期(加曾利E式)  
 文様:除線文、単節斜縄文(LR)
- 4 出土位置・注記:3トレ 時代時期:縄文時代中・後期 文様:単節斜縄文(RL)

第23表 松原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1998	市教委	試掘	なし	1
2	2001	市教委	試掘	なし	2
3	2008	公社	試掘	住居5(古墳前期1、中期不明4)、 上坑1(両期不明)、ピット1 (両期不明)、溝2(両期不明)、 不明遺構1(両期不明)	3
4	2009	調査会	本調査	住居5(古墳)、溝2	4
5	2015	公社	試掘	住居1(古墳)、井戸1(両期不明)	5

#### 文献

- 1 平成10年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 松原遺跡(第4次)
- 5 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第94図 松原遺跡第6次調査区

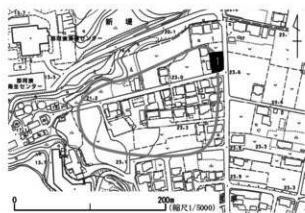


第95図 松原通跡第6次調査区出土遺物

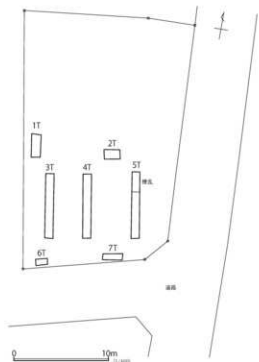
## 23 田宮原 I 遺跡

### (1) 第1次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は更地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3m～0.4mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第96図 田宮原 I 遺跡の調査地点 (数字は調査次数)



第97図 田宮原 I 遺跡第1次調査区

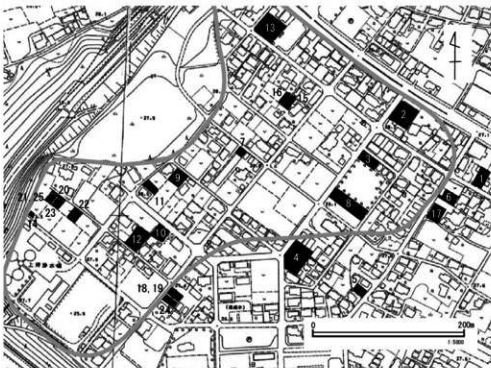
### Ⅲ 本調査報告

#### 1 市毛上坪遺跡第19次調査報告

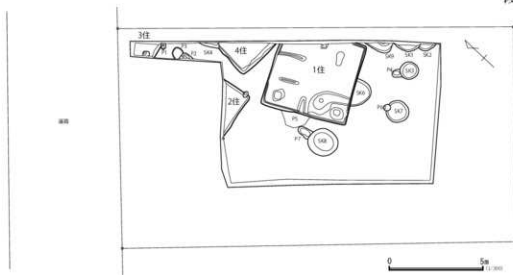
##### (1) 調査の経過

所在地/ひたちなち市市毛上坪 1194 番 1  
期間/平成30年1月11日～平成30年2月7日  
担当/佐々木義剛 面積/91㎡ 時代/古墳・平安  
遺構/竪穴住居跡4基(古墳時代2基,平安時代2基),  
土坑9基(時期不明),ピット7基(時期不明)

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から150mほ



第98図 市毛上坪遺跡の調査地点(数字は調査次数)



第99図 市毛上坪遺跡第19次調査区的位置(SKは土坑,Pはピットを示す。)

ど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第18次調査)がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下、簡単に調査の経過を記す。

1月11日:調査区設定後、重機による表土除去。

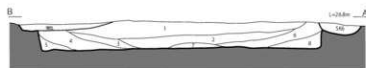
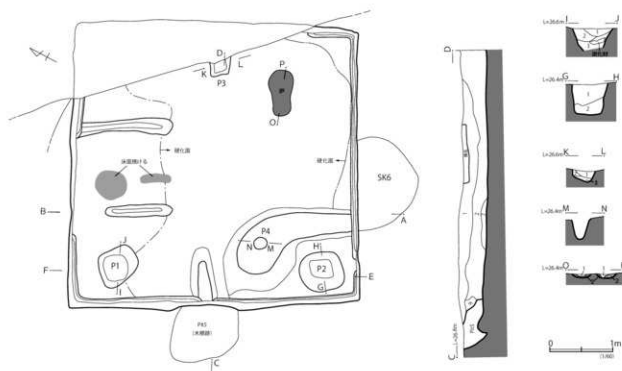
1月12日:遺構確認、掘り込み開始。1月18日:図面・写真による記録作業開始。2月1日:調査区全体図、写真。2月6日:重機による埋戻し。2月7日:現場撤収作業。

##### (2) 住居跡

###### 第1号住居跡

遺構 第6号土坑および第5号ピット(木根跡と思われる。)と重複する。新旧は、第5号ピット→第1号住居跡→第6号土坑となる。当住居跡の主軸方向は、N-62°Eを測る。竪穴部の規模は、東西4.4m、南北4.6mで、形状はほぼ正方形である。壁高は東壁0.4m、西壁0.4m、南壁0.4m、北壁0.4mを測る。壁周溝は認められたが、所々途切れている。調査最終段階で、床を削って柱穴を探

したが、主柱穴は見つからなかった。床硬化面の範囲からみて、西壁中央部あたりが出入口になるものと思われる。北壁付近に硬化面がみられないが、その部分には根太の痕跡の可能性がある、壁から直角にのびる浅い溝が2条認められた。がは不明瞭であるが、床をやや掘りくぼめる点か



#### 土層説明

1 住 A3・D 土層断面

1 暗褐色 (ローム粒含む)

2 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)

3 褐色 (ローム粒少量含む)

4 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)

5 褐色 (ローム粒少量含む)

6 暗褐色 (ローム粒含む)

7 褐色 (ローム粒非常に多量含む)

8 褐色 (ローム粒少量含む)

9 褐色 (ロームブロック少量含む)

10 褐色 (ロームブロック粒含む)

1 住 G4 土層断面

1 暗褐色 (ローム小ブロック含む)

2 黄褐色 (ローム粒主体)

1 住 H 土層断面

1 黄褐色 (ローム粒少量含む)

2 褐色 (ローム粒やや多量含む)

3 黄褐色 (ロームブロック主体 褐色土混じり)

1 住 K1 土層断面

1 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)

2 褐色 (ローム粒少量含む)

3 明褐色 (ローム粒非常に少量含む)

1 住 OP 土層断面

1 黄褐色 (粘土粒含む)

2 赤 (粘土)

第 100 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡

らみて、床面南東部の焼土が $\frac{4}{5}$ になるのであろう。ピットは北西隅と南西隅に不整形方を呈するやや大きめのピットがみられた。ピット床面は平坦であることから、いわゆる貯蔵穴として理解できよう。とくに P2 を囲むように、3 cm ほどの床の高まりが巡るのは、P2 の機能と関わるのかもしれない。

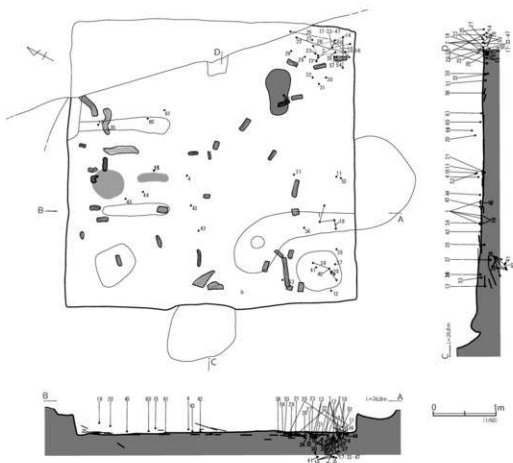
**遺物出土状況** 床面より炭化材及び焼土が出土していることから、火事があった住居と考えられる。住居跡南西隅部及びピット 2 から、杯類がまとめて出土している点が注目される。

#### 遺物説明

第 102 図

- 1 台帳：P17・18・19・21 材質：土師器 器種：鉢 残存：口縁部 40%、胴部 60%、底部 100% 法量：口径 (29.6)、器高 26.5、底径 8.1 色調：内外面とも黄褐色にぶい橙～褐～暗褐～黒色。胎土：小石 (白微)、礫 (白少)、砂 (白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部上～中位へら削り後へらナデ・へらミガキ、下位～底部へら削り、内面口縁部ヨコナデ、胴部へらナデ・へら削り。使用痕：底面がやや摩滅している。備考：—
- 2 台帳：P1・3・40 材質：土師器 器種：鉢 残存：口縁～胴部 30% 法量：口径 (30.8) 器高 (20.3) 色調：外面褐～暗褐～黒色。内面橙～ぶい橙色。胎土：礫 (白微)、砂 (白多、透多) 焼成：良





第101図 市毛上坪遺跡第19次調査区第1住居跡遺物出土状況

好 技法等：外面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ，胴部上位ヘラ削り後ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部上位ヘラナデ，下位ヘラナデ後ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

3 台帳：1住・1区・3区・4区 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁～胴部上位60% 法量：口径12.0，器高20.0，底径（8.0）色調：外面橙～にぶい橙～暗褐～黒色。内面橙～黒色。

胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴～底部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：内面輪積み痕がみられる。外面胴部にスス状物付着。

4 台帳：P30，1住3区・4区 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部20% 法量：口径（15.7），器高（4.9）色調：外面にぶい橙～黒褐色。内面橙色 胎土：礫（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：内外面とも口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

5 台帳：2区・3区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部100% 法量：器高（2.4），底径6.0 色調：外面暗褐～黒色。内面褐色。 胎土：小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

6 台帳：1住 材質：土師器 器種：甕 残存：底部40% 法量：器高（1.9），底径（7.5）色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内面黄橙色 胎土：砂（白多，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ 使用痕：— 備考：—

7 台帳：2区・3区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部100% 法量：器高（2.5）底径7.5 色調：外面にぶい黄橙～黒褐色。内面橙～褐色。

胎土：砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ 使用痕：— 備考：—

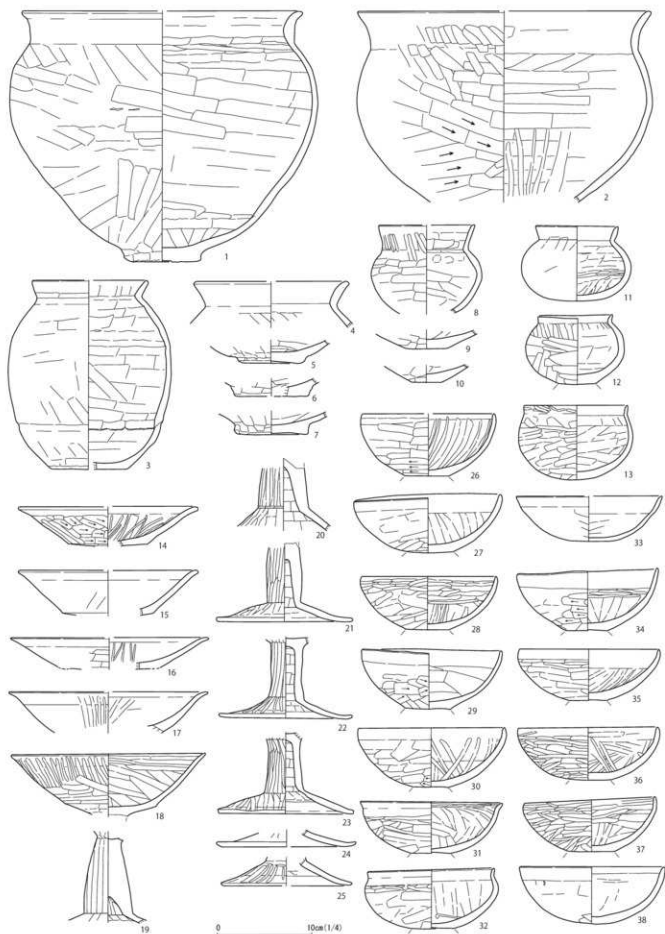
8 台帳：1区・3区・4区 材質：土師器 器種：小形甕 残存：口縁～胴部下位60% 法量：口径10.2，器高（9.5）色調：内外面とも橙～暗褐～黒色。胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁～胴部上位ヘラナデ・ヘラミガキ，中～下位ヘラ削り。内面口縁部・胴部中～下位ヘラナデ，上位ナデ・コビナデ。 使用痕：— 備考：—

9 台帳：2区 材質：土師器 器種：甕？ 残存：底部100% 法量：器高（2.0），底径4.4 色調：外面橙～黄橙色。内面黒色。胎土：礫（白少，灰微），砂（白少，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

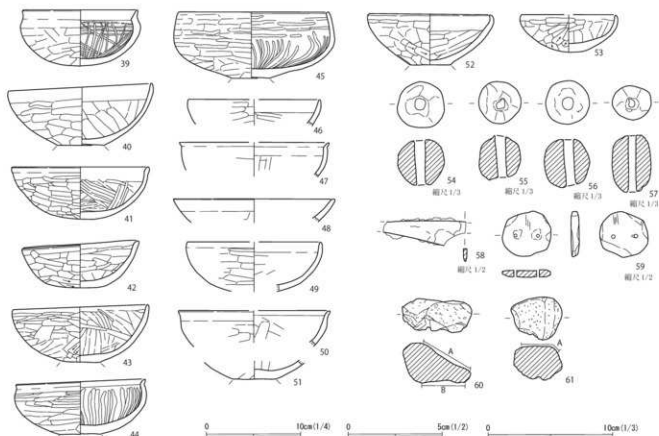
10 台帳：P37・41 材質：土師器 器種：甕 残存：底部70% 法量：器高（1.9），底径3.1 色調：内外面とも橙～黒色。胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

11 台帳：P20 材質：土師器 器種：甕 残存：90% 法量：口径8.5，器高8.0，最大径11.6 色調：内外面とも赤橙～黒色。胎土：礫（白少，灰少），砂（白多，透多，黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴～底部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ等。内面口縁部ヨコナデ？，胴部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：外面全体と内面口縁部の器面が摩滅している。

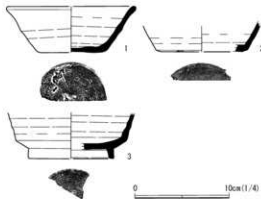
12 台帳：P24 材質：土師器 器種：甕 残存：100% 法量：口径7.8，器高7.0～7.3，最大径10.4 色調：外面橙～黄橙～にぶい黄橙～



第 102 图 市毛上坪遗址第 19 次调查区第 1 号住居出土遗物 (1)



第103図 市毛上坪遺跡第19次調査区第1号住居跡出土遺物(2)



第104図 市毛上坪遺跡第19次調査区第1号住居跡出土遺物(3)

黒色。内面褐色。胎土：礫（白微）。砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。胴部上へ中位へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。下位～底部へラ削り。内面口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。

使用痕：一 備考：一

13 台帳：P8・40 材質：土師器 器種：壺 残存：100% 法量：口径：10.8、器高7.9、最大径12.0 色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒色。胎土：礫（白微）。砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁～胴部上位ヨコナデ後へラミガキ。中位～底部へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。ヘラミガキ。

使用痕：一 備考：一

14 台帳：P41 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部10% 法量：口径（19.0）、器高（4.3）色調：外面橙～にぶい褐色。内面赤橙～褐色。

胎土：礫（白少）。砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

15 台帳：P31 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部10% 法量：口径（19.0）、器高（4.8）色調：外面濁～暗褐色。内面黄褐色。胎土：砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。体部？ 使用痕：一 備考：内面器面が摩滅している。

16 台帳：P2、2区・3区 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部10% 法量：口径（11.0）、器高（3.3）色調：内外面とも橙～褐色。胎土：礫（白微）。砂（白多、透多、黒少）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部へラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

17 台帳：P3、1区・1区床 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部40% 法量：口径（11.0）、器高（4.3）色調：内外面とも橙色。胎土：礫（白微）。砂（白多、透多、黒少）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。体部へラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

18 台帳：P18・19、1住2区 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部80% 法量：口径20.6、器高（6.7）色調：内外面ともにぶい黄橙～暗褐～黒色。胎土：礫（白微）。砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部へラ削り後へラナデ・ヘラミガキ。内面へラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

19 台帳：P36 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部100% 法量：器高（9.7）色調：外面にぶい橙～褐色。内面褐色。胎土：砂（白多、透多）

焼成：良好 技法等：内外面ともヘラナデ。 使用痕：一 備考：一

20 台帳：P35 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部 100% 法量：器高 (7.6) 色調：内外面とも橙～にぶい褐色 胎上：砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラミガキ。内面脚部ヘラ削り。裾部ヘラナデ。 使用痕：一 備考：一

21 台帳：P16 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部 100%。裾部 30% 法量：器高 (8.3)、底径 (14.3) 色調：見外面とも橙～黒色。胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。裾部端部ヨコナデ。内面脚部ヘラ削り。裾部ヘラナデ。 使用痕：一 備考：一

22 台帳：P5・25, 1区床 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部 100%。裾部 70% 法量：器高 (8.6)、底径 14.1 色調：外面橙～にぶい橙～褐色。内面橙～褐～黒色。胎上：礫 (白微, 茶微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面脚～裾部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。下位ヨコナデ。内面脚～裾部上位ヘラナデ。中～下位ヨコナデ。 使用痕：一 備考：一

23 台帳：P6, 2区 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚～裾部 100% 法量：器高 (8.6)、底径 14.2 色調：内外面とも赤橙～橙～褐～暗褐色。胎上：礫 (白微, 灰微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面脚～裾部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。下位ヨコナデ。内面杯～脚～裾部上位ヘラナデ。中～下位ヨコナデ。 使用痕：一 備考：一

24 台帳：1住・1住床・3区・4区 材質：土師器 器種：高杯 残存：裾部 60% 法量：器高 (1.8)、底径 14.8 色調：内外面とも黄橙～黒色 胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラナデ。 使用痕：一 備考：内外面とも器面が摩滅している。

25 台帳：P2・39 材質：土師器 器種：高杯 残存：裾部 40% 法量：器高 (3.0)、底径 (13.8) 色調：外面褐～暗褐色。内面橙～暗褐色。胎上：礫 (白少, 灰少)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ・ヘラミガキ。下位にヨコナデ。内面ヘラナデ。下位にヨコナデ。 使用痕：一 備考：一

26 台帳：P2・7・38・41・42, 1区 材質：土師器 器種：杯 残存：口縁部～体部上位 30%。中位～底部 100% 法量：口径 (14.0)。器高 6.6。底径 4.6 色調：外面橙～褐～黒色。内面橙～褐色。胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部～体部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

27 台帳：P4 材質：土師器 器種：杯 残存：ほぼ 100% 法量：口径 15.4。器高 5.5～6.2。底径 4.8～5.0 色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内赤橙～橙～黒色。胎上：小石 (白微, 茶微)。礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部上～中位一部ヘラナデ。下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：口縁部の一部が欠失している。備考：外面面調整が端。

28 台帳：P9 材質：土師器 器種：杯 残存：80% 法量：口径 14.2。器高 5.6。底径 4.5 色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒色 胎上：砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁～体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：外面器面の一部にスス状物付着。

29 台帳：P10 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径

14.8。器高 6.0～6.2。底径 4.5～4.7 色調：内外面ともにぶい橙～褐～黒褐色。胎上：小石 (白微)。礫 (白少)。砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。下位～底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。 使用痕：口縁部の一部が欠失している。備考：外面器面調整が端。内面が赤彩されているかもしれない。

30 台帳：P11 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径 15.4。器高 6.2。底径 3.7 色調：外面橙～褐～にぶい橙～黒色。内面橙～にぶい橙～黒褐色。胎上：礫 (白少)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底面ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ後ヘラミガキ。下位ヘラミガキ。 使用痕：口縁部の一部が欠失している。備考：外面の一部にスス状物付着。

31 台帳：P12 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径 14.8。器高 5.5。底径 4.1 色調：外面赤～赤橙～橙～黄橙～黒色。内面赤～黒色。胎上：礫 (白少, 灰微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底部ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：一

32 台帳：P13, 1区 材質：土師器 器種：杯 残存：70% 法量：口径 13.2。器高 6.0～6.4。底径 4.5 色調：内外面とも橙～にぶい橙～黄橙～暗褐～黒色。胎上：小石 (白微)。礫 (白少)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部若干のヘラナデ・ヘラミガキ。底部がやや凹む。 使用痕：一 備考：一

33 台帳：P3, 1区 材質：土師器 器種：杯 残存：30% 法量：口径 (15.3)。器高 4.8 色調：外面褐色。内面橙～黒色。胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 使用痕：一 備考：一

34 台帳：P22, 1区 材質：土師器 器種：杯 残存：口径 14.8。器高 6.0～6.5。底径 4.5 色調：外面橙～にぶい黄橙～黒色。内面橙～にぶい橙～暗褐色。胎上：小石 (白微)。礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部上位ヘラナデ。中位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部上位ヘラミガキ。中～下位ヘラナデ。底面はやや凹む。 使用痕：一 備考：一

35 台帳：P23 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径 14.7。器高 5.4。底径 4.0 色調：外面赤～赤橙～赤褐色。内面赤橙～にぶい橙～黒色。胎上：砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底部ヘラ削り。底部は凹む。内面口縁～体部上位ヨコナデ。中～下位ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：一 備考：重し上器。

36 台帳：P27 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径 14.7。器高 5.5～5.6。底径 4.1 色調：外面橙～にぶい橙～褐～黒色。内面ににぶい橙～褐～黒色。胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。内面にスス状物付着。

37 台帳：P47 材質：土師器 器種：杯 残存：ほぼ 100% 法量：口径 13.8。器高 5.1～5.8。底径 4.9 色調：外面赤橙～暗赤褐。内面赤橙～橙～黒色。胎上：礫 (白微)。砂 (白多, 透多, 黒微) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：口縁部の一部が欠失し

ている。備考：—

38 台帳：P51・52 材質：土師器 器種：杯 残存：60% 法量：口径15.3, 器高6.1 色調：外面橙～にぶい黄橙。内面橙～にぶい黄橙～黒色。胎土：小石（白微）、礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ？、下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ？ 使用痕：— 備考：内外面とも器面が摩滅している。

#### 第103図

39 台帳：P49・50・54・55, Pr2 材質：土師器 器種：杯 残存：80% 法量：口径12.1, 器高5.9 色調：外面橙～にぶい橙～暗褐～黒色。内面赤橙～黒色。胎土：小石（白微）、礫（白微）、砂（白多、透多、黒少、赤少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

40 台帳：P50, Pr2 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径15.1, 器高5.7～6.7, 底径4.9 色調：外面赤橙～橙～にぶい橙～黒色。内面赤橙～橙～黒色。胎土：礫（白少）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ。底部がやや凹む。 使用痕：— 備考：—

41 台帳：P53 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径14.5, 器高5.5 色調：内外面橙～にぶい橙～黒色 胎土：礫（白微、灰微、茶微）、砂（白多、透多、黒多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：内面体部器面の一部が摩滅している。

42 台帳：P28 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径11.7～12.4, 器高4.2～5.0 色調：外面橙～にぶい褐～黒褐～黒色。内面赤橙～褐～黒褐～黒色。胎土：礫（白微、茶微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：器形はゆがんでいる。

43 台帳：P29 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径14.2, 器高5.5～6.1, 底径4.1 色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒褐色 胎土：礫（白少）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。底部ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：口縁端部がやや摩滅している。 備考：—

44 台帳：P33 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径13.5, 器高5.2～5.8, 底径4.3 色調：外面橙～にぶい橙～褐～黒色。内面褐色。胎土：小石（白微）、礫（白少、灰少）、砂（白少、透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ、底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。放射状にヘラミガキ。 使用痕：— 備考：口縁端部の一部が欠失している。

45 台帳：P34 材質：土師器 器種：鉢 残存：90% 法量：口径15.7, 器高7.0, 底径3.9 色調：外面にぶい橙～褐～暗褐～黒色。内面褐～暗褐色。胎土：礫（白少）、砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラ削り後ヘラナデヘラミガキ、底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラナデ・放射状にヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

46 台帳：1区・Pr2 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（14.1）、器高（2.7） 色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内面にぶい橙～暗褐色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ。

47 台帳：P3, 1区 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（15.8）、器高（3.6） 色調：内外面とも褐色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ？。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

48 台帳：1区・床 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（16.8）、器高（2.5） 色調：外面褐色。内面黒色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。内面ヨコナデ。 使用痕：— 備考：—

49 1区・4区 材質：土師器 器種：杯 残存：20% 法量：口径（14.0）、器高（5.3） 色調：内外面とも橙～黒色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

50 台帳：P3・42, 1区 床 材質：土師器 器種：杯 残存：口縁部～体部上位60% 法量：口径16.0, 器高（3.4） 色調：内外面とも橙～黒色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

51 台帳：4区 材質：土師器 器種：杯？ 残存：底部100% 法量：器高（2.0）、底径4.9 色調：外面橙～黒色。内面褐色。胎土：砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

52 台帳：P15, 1区・2区・床 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径12.6, 器高5.5, 底径4.3 色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～暗褐～黒色。胎土：礫（白微）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ、下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

53 台帳：P26 材質：土師器 器種：杯 残存：60% 法量：口径10.0, 器高4.0 色調：内外面ともぶい黄橙～暗褐色。胎土：小石（白微）、礫（白微）、砂（白多、透多、黒少、赤微） 焼成：良好 技法等：外面口縁部～体部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ、下位ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

54 台帳：P43 材質：土師質 種類：土鏝 法量：長3.5, 最大径3.7, 孔径0.8, 重量46.46g 備考：—

55 台帳：P45 材質：土師質 種類：土鏝 法量：長3.5, 最大径3.3, 孔径0.5～0.6, 重量35.92g 備考：—

56 台帳：P14 材質：土師質 種類：土鏝 法量：長3.8, 最大径3.4, 孔径0.7, 重量45.71g 備考：—

57 台帳：P44 材質：土師質 種類：土鏝 法量：長4.5, 最大径3.1, 孔径0.6, 重量37.79g 備考：やや凹形状。

58 台帳：3区 材質：鉄 種類：刀子？ 残存：刀部～基部片か 法量：長（4.3）、最大幅（1.3）、最大厚（0.2）、重量4.83g 備考：—

59 台帳：4区 材質：滑石 種類：双孔円板 法量：長2.5, 幅2.3, 厚0.3～0.4, 重量3.85g 色調：灰色 備考：—

60 台帳：S2 材質：軽石 種類：砥石 法量：長7.2, 幅3.3, 厚4.2,

重量23.91g 備考:砥面はAの1面。

61 台帳:S3 材質:軽石 種類:砥石 法量:  
長5.5、幅4.5、厚3.5、重量20.41g 備考:砥  
面はA・Bの2面。

#### 第104図

1 出土位置:1住3区 材質:須恵器 器種:  
杯 残存:底部50%、体部20% 法量:口径  
(13.3)、器高4.9、底径(7.3) 色調:灰色。口  
縁部外面暗灰色。胎土:礫(白多、灰少、透少)、  
骨針微量 特徴:回転ヘラ切り。底部外面ナデ。  
焼成:硬質。 備考:木葉下窯産か

2 出土位置:1住2区 材質:須恵器 器種:  
杯 残存:底部周縁20% 法量:底径(9.6)  
色調:灰色 胎土:骨針少 特徴:底部外面回転  
ヘラ削り。焼成:硬質。 備考:木葉下窯産か

3 出土位置:1住 注記:P46 材質:須恵器  
器種:有台杯 残存:底部20% 法量:高台径  
(8.9) 色調:灰色 胎土:礫(白)、骨針少  
特徴:底部外面回転ヘラ削り。 焼成:硬質。 備  
考:木葉下窯産か

#### 第2号住居跡

**遺構** 重複する遺構はない。北壁に竈を有  
するとすれば、当住居跡の主軸方向は、N-6°  
-Wを測る。調査は竈穴南東部のみであるため、  
住居跡の規模は不明である。壁高は土層断面に  
よると、東壁0.7m、南壁0.6mを測る。壁周溝・  
柱穴は認められなかった。覆土は自然土を主  
とするものと思われる。土層断面からみると、  
深い部分で0.3mほどの住居掘形が存在するよ  
うである。

**遺物出土状況** 遺物は覆土下層から出土し  
ている。穂摘鎌8は、刃を上にした状態で床面近くか  
ら出土した。

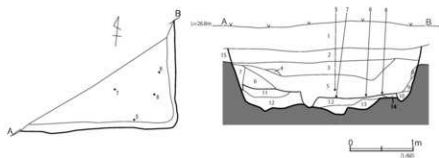
#### 遺物説明

##### 第106図

1 出土位置:2住 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部35%、体部  
下半25%、口縁部10% 法量:口径(14.6)、器高5.3、底径(7.6)  
色調:灰色 胎土:礫(白少、白透少)、骨針少 特徴:底部外面へラ記  
号 備考:木葉下窯産か

2 出土位置:2住 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部30% 法量:  
底径(6.0) 色調:灰色 胎土:礫(白多、白透少、灰少)骨針微量 特徴:  
底部外面手持ちへラ削り後へラ記号。焼成硬質。 備考:木葉下窯産か

3 出土位置:2住 材質:須恵器 器種:長頸瓶 残存:底部外周  
30% 法量:高台径(10.0) 色調:灰色 胎土:礫(白、透少) 特徴:  
内面横方向ナデ。焼成硬質。



#### 土層説明

2住 Aa土層断面

1 明褐色(赤土)

2 明褐色

3 明褐色(ローム粒含む)

4 明褐色

5 明褐色(ローム小ブロック含む 白褐色粘土小ブロック少量含む)

6 褐色(ローム粒多量含む 白褐色粘土小ブロック少量含む)

7 褐色(ローム粒多量含む)

8 明褐色(ローム土主体)

9 褐色(ローム粒含む)

10 明褐色(ローム粒多量含む)

11 明褐色(白褐色粘土ブロック多量含む 網まり有り)

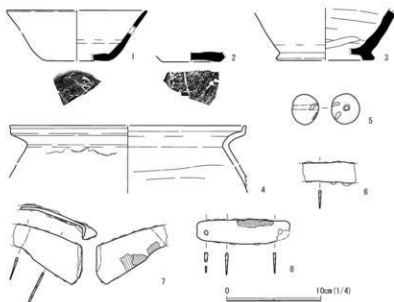
12 褐色(ロームブロック多量含む 黄色土置じる 網まり有り)

13 黄褐色(ロームブロック主体 網まり有り)

14 褐色(ローム土多量含む 網まり有り)

15 褐色(赤土)

#### 第105図 市毛上坪遺跡第19区調査区第2号住居跡



#### 第106図 市毛上坪遺跡第19区調査区第2号住居跡出土遺物

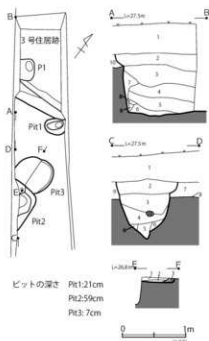
4 出土位置:2住 材質:土師器 器種:喪 残存:口縁部小片 法量:  
口径(24.7) 色調:明褐色 胎土:砂(透、白少) 特徴:口縁部ヨコナデ。  
胴部内面横方向ナデ。

5 出土位置:2住 注記:P1 材質:土師器 器種:球状土罐 残存:  
ほぼ完形 法量:長2.8、幅3.2、孔径0.4、重量27.8g 色調:橙色、  
一部黒色 胎土:細砂(角閃石やゆ)

6 出土位置:2住 注記:I3 材質:鉄 器種:鎌 残存:刃部 法量:  
残存長5.6、幅2.1、重量11.2g 特徴:I1の刃部かと思われる。

7 出土位置:2住 注記:I1 材質:鉄 器種:鎌 残存:基部 法量:  
残存長8.1、幅3.9、重量43.9g 特徴:端部上方を折り返す。一部に木  
が附着する。

8 出土位置:2住 注記:I2 材質:鉄 器種:穂摘鎌 残存:若干欠  
失 法量:長9.8、幅2.6、重量21.0g 特徴:両端に孔をもつ。上部中  
央付近に木質が附着する。



- ピットの深さ  
P1t1: 21cm  
P1t2: 59cm  
P1t3: 7cm
- 土層説明**
- 3住 AB 土層断面
  - 暗褐色 (表土)
  - 暗褐色
  - 暗褐色 (ローム粒含む)
  - 暗褐色 (ロームブロック少量含む)
  - 褐色 (ローム粒多量含む) ロームブロック含む
  - 暗褐色
  - 褐色 (ローム粒多量含む)
  - 暗褐色
  - 褐色 (ローム小ブロック多量含む)
  - 明褐色 (表土)
- P1tCD 土層断面
- 褐色 (表土)
  - 暗褐色
- 暗褐色 (ローム粒少量含む)
  - 暗褐色 (ローム粒・ロームブロック少量含む)
  - 暗褐色 (ローム粒多量含む) ローム小ブロック含む
  - 明褐色 (ローム粒主体)
  - 明褐色 (白褐色粘土粒多量含む) 焼土粒少量含む
  - 白褐色粘土
  - 明褐色 (表土)
  - 焼土
- P1tEF 土層断面
- 白褐色粘土
  - 明褐色
  - 暗褐色

第 107 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 3 号住居跡



第 108 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 3 号住居跡出土遺物

### 第 3 号住居跡

**遺構** 重複する遺構はない。北壁に竈を有するとすれば、当住居跡の主軸方向は N-8°-W を測る可能性が高い。調査は南壁の一部分にとどまるため、住居跡の規模は不明である。壁高は土層断面によると南壁 0.9 m を測る。壁周溝・柱穴は認められなかった。深さ 12cm ほどの P1 は、位置からみて出入り口ピットになる可能性もあろう。覆土は自然埋土を主とするものと思われる。遺物

は住居覆土より少量出土している。

### 遺物説明

第 108 図

1 出土位置: 3 住 材質: 須恵器 器種: 杯 残存: 底部外周 20% 法量: 底径 (7.8) 色調: 灰色 胎土: 礫 (灰少)、骨針微量 特徴: 焼成硬質 備考: 木葉下産物か

### 第 4 号住居跡

**遺構** 第 4 号土坑・第 5 号土坑と重複する。新旧関係は第 4 号住居跡→第 5 号土坑→第 4 号土坑となる。北壁に竈を有するとすれば、当住居跡の主軸方向は、N-4°-E となる。調査は竪穴南西部のみであるため、住居跡の規模は不明である。壁高は土層断面によると南壁 0.9 m を測る。床面には浅い壁周溝がめぐる。柱穴は認められなかった。覆土はロームブロックや焼土などからみて人為的埋土を主とするものと思われる。覆土中の焼土層は第 5 層上面に堆積していた。なお土層断面から見ると、深い部分で 15cm ほどの住居掘形が存在するようである。遺物は住居覆土より少量出土している。

### 遺物説明

第 110 図

1 台帳: 4 住 材質: 土師器 器種: 杯 残存: 10% 法量: 口径 (12.0)、器高 (3.5) 色調: 内外面とも暗褐色 胎土: 礫 (白微)、砂 (白多、透多) 焼成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ、体部へう削り。内面ヨコナデ。内外面とも黒色処理。 使用痕: 一 備考: 一

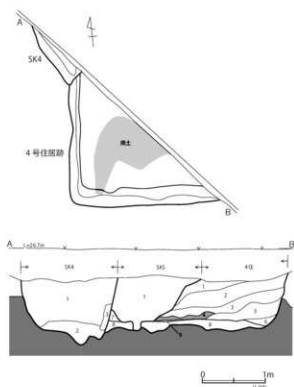
### (3) 土坑

#### 第 1 号土坑

第 2 号土坑と重複する。新旧は第 1 号土坑→第 2 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 1.0 m を測り、土坑底面は平坦であった。出土遺物は、土師器片が 11 点、須恵器片が 1 点出土した。土師器片は 11 点中 10 点が古墳時代と思われるため、当土坑は古墳時代になる可能性があろう。

#### 第 2 号土坑

第 2 号土坑と重複する。新旧は第 1 号土坑→第 2 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 0.3 m を測り、土坑底面は平坦であった。出土遺物は、土師器片が 8 点、須恵器片が 6 点がみられる。須恵器が含まれるこ



#### 土層説明

##### 4住AP土層断面

- 1 褐色 (ローム粒や多量含む)
- 2 褐色 (ローム粒・ローム小ブロック多量含む)
- 3 褐色 (ローム粒や多量含む)
- 4 褐色 (粘土主体)
- 5 高褐色 (ローム粒含む)
- 6 褐色 (ローム粒多量含む)
- 7 暗褐色 (ロームブロック多量含む)
- 8 高褐色 (ロームブロックと暗褐色土の混色層 網入り有り 凝形硬土)
- 9 灰 (粘土層)

##### SK4A断面

- 1 高褐色 (ローム粒含む)
- 2 高褐色 (ローム土層じむ)
- 3 高褐色 (ロームブロック多量含む)

##### SK5A断面

- 1 高褐色 (ローム粒含む) ロームブロック少量含む)

第109図 市毛上坪遺跡第19次調査区第4号住居跡



第110図 市毛上坪遺跡第19次調査区第4号住居跡出土遺物

とから、当土坑は奈良・平安時代になる可能性があろう。

### 第3号土坑

第4号ピットと重複する。新旧は第4号ピット→第3号土坑となる。直径0.9m、深さ0.1mを測り、土坑底面は平坦であった。出土遺物は、土師器片が10点、

須恵器片が1点、ガラス質滓小片が1点出土した。土師器片のなかに、常陸型裏破片が5点含まれることからみると、奈良・平安時代になる可能性があろう。

### 第4号土坑

第4号住居跡、第5号土坑と重複する。新旧は第4号住居跡→第5号土坑→第4号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると0.8mを測り、土坑底面は凹凸があった。遺物は出土していない。

### 第5号土坑

第4号住居跡、第4号土坑と重複する。新旧は第4号住居跡→第5号土坑→第4号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると0.7mを測り、土坑底面は凹凸があった。第4号住居跡の土層断面で確認された土坑であり、その大部分は調査区外に位置するものと考えられる。遺物は出土していない。

### 第6号土坑

第1号住居跡と重複する。新旧は第1号住居跡→第6号土坑となる。AB土層断面からみると、平面形は不整形となるようであり、深さは0.15mを測る。土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は、土師器片が15点、須恵器片が4点出土した。須恵器片のなかに9世紀代の須恵器杯口縁部片が含まれることからみると、平安時代になる可能性がある。第1号住居跡覆土中から出土した平安時代の土器片と関わる遺構であろうか。

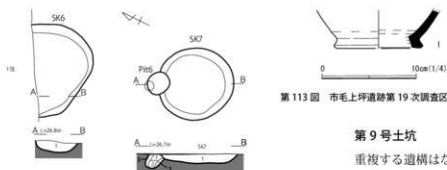
### 第7号土坑

第6号ピットと重複する。新旧は第6号ピット→第7号土坑となる。直径1.1m、深さ0.15mを測る円形の土坑であり、土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は、土師器片が15点、須恵器片が6点出土した。土師器片はほとんどが古墳時代であるが、須恵器片に回転ヘラ切り未調整の須恵器杯底部片が含まれることからみて、奈良・平安時代になる可能性があるのではないだろうか。

### 第8号土坑

第7号ピットと重複する。新旧は第8号土坑→第7号ピットとなる。径1.4×1.5m、深さ0.25mを測る円形の土坑であり、土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は、土師器片が29点、須恵器片が8点出土した。土師器片はほとんどが古墳時代であるが、須恵器片の存在や、第6・7号土坑との類似性からみて、奈良・平安時代になる可能性があるのではないだろうか。





第 113 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑出土遺物

### 第 9 号土坑

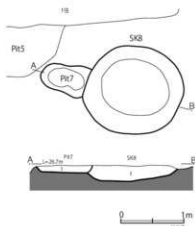
重複する遺構はない。土坑の深さは土層断面によると 0.5 m を測り、土坑底面は緩く湾曲し、一部に深い掘り込みがあった。出土遺物は、土師器片が 6 点、須恵器片が 1 点出土した。須恵器片がみられることから、当土坑は奈良・平安時代になる可能性があろう。

### 遺物説明

第 113 図

1 出土位置：8号土坑 材質：須恵器 器種：長頸瓶 残存：高台部 30% 法量：高台径 (8.7) 色調：灰色 胎土：一 特徴：胴部外面回転へう削り。高台接地面厚減。

第 111 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑・ピット (1)



### 土層説明

#### SK6B 土層断面

1 褐色色 (ローム粒やや多量含む)

#### SK7A 土層断面

1 褐色色 (ローム大ブロック少量含む)

#### SK8A 土層断面

1 褐色色 (ローム小ブロック少量含む)

#### Pt6AS 土層断面

1 褐色色  
2 明褐色  
3 黒褐色 (ローム土主体)

#### Pt7AS 土層断面

1 褐色色 (ローム粒含む)

第 111 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑・ピット (1)

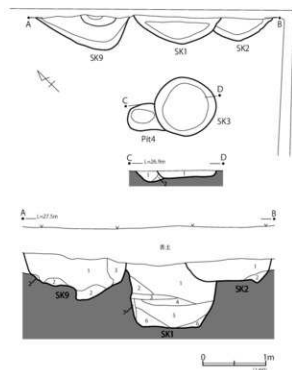
### (4) 調査区出土遺物

各遺構出土の時期が異なる遺物や、表土出土の遺物である。

### 遺物説明

第 114 図

1 出土位置・注記：表土 時代時期：縄文時代後期 (称名寺式) 文様：口縁部斜突文・沈線文、胴部沈線文・単節斜縄文 (LR)  
2 出土位置・注記：1住3区 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (RL)  
3 出土位置・注記：1住3区 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR)  
4 出土位置・注記：表土 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (RL)  
5 出土位置・注記：1住2区 時代時期：縄文時代中・後期 文様：無節斜縄文 (R)  
6 出土位置・注記：表土 時代時期：縄文時代中・後期 文様：条線文 (函数 5本以上)  
7 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文 (LR-R かわ)  
8 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：大型壺形器 文様：付加条縄文 (R × R, LZ) 備考：



### 土層説明

#### SK1AB 土層断面

1 黒褐色 (ローム粒含む) ロームブロック少量含む  
2 黒褐色 (ローム粒含む)  
3 黒褐色 (ロームブロック多量含む)  
4 黒褐色 (ローム粒含む)  
5 黒褐色  
6 黒褐色 (ローム土多量混じる)  
7 黒褐色 (ローム粒含む)

#### SK2AB 土層断面

1 褐色色 (ローム粒含む)  
2 明褐色 (ローム粒やや多量含む)

#### SK3CD 土層断面

1 褐色色 (ローム粒多量含む)

#### SK9AB 土層断面

1 明褐色 (黒褐色土混じる ローム粒含む)  
2 明褐色 (ロームブロックと黒褐色土の混合層)  
3 褐色 (ローム粒少量含む)

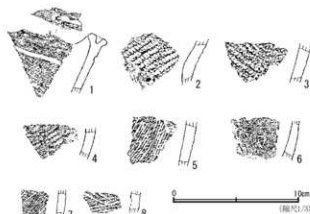
#### Pt4CD 土層断面

1 褐色色 (ローム粒多量含む)  
2 明褐色 (ローム粒非常に多量含む)

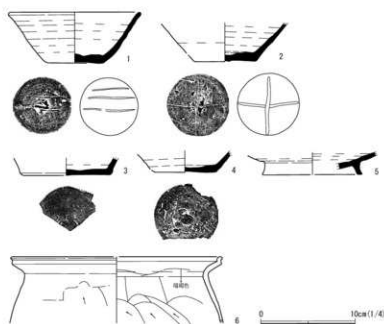
第 112 図 市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑・ピット (2)

第115図

- 1 出土位置：表土 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部40%欠失 法量：口径(13.7)、器高5.4、底径5.8 色調：明灰色 胎土：小石(灰少)、礫(白多、灰多、透) 特徴：回転ヘラ切り。底部外面ヘラ記号「三」。焼成硬質。外面底部周縁および内面口縁部厚減。備考：木葉下窯産か
- 2 出土位置：表土 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部、体部下半30% 法量：底径6.3 色調：灰色 胎土：礫(白多、灰)、骨針 特徴：底部外面ナデ後ヘラ記号「十」。焼成硬質。外面底部周縁厚減。備考：木葉下窯産か
- 3 出土位置：表土 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部40% 法量：底径(9.1) 色調：黒色 胎土：細砂(透多、白) 特徴：底部外面回転ヘラ削り。火を受けているか。
- 4 出土位置：表土 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部80% 法量：底径6.5 色調：灰色 胎土：礫(白多、灰)、骨針微量 特徴：底部外面の一部を一方方向手持ちヘラ削り。焼成硬質。備考：木葉下窯産か
- 5 出土位置：表土 材質：須恵器 器種：有台盤 残存：底部外周30% 法量：高台径(10.5) 色調：灰色 胎土：礫(白)、黒色吹き出し 特徴：底部外面回転ヘラ削り。焼成硬質。内面重ね焼き痕(同器種正位重ね焼きか)。高台端部が縮かく欠失する。
- 6 出土位置：表土 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径(21.9) 色調：褐色。胴部内面暗褐色 胎土：礫(白少、白透少)、砂(透、白) 特徴：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向ナデ。胴部内面縦方向ナデの後、斜方向ナデ。



第114図 市毛上坪遺跡第19次調査区出土遺物(1)



第115図 市毛上坪遺跡第19次調査区出土遺物(2)

## 2 市毛上坪遺跡第25次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛上坪 1209 番 2 (第 98 図)

期間 / 平成 30 年 9 月 26 日～平成 30 年 10 月 18 日

担当 / 佐々木義則 面積 / 116 m<sup>2</sup>

時代 / 弥生・古墳・平安時代

遺構 / 竪穴住居跡 5 基 (古墳時代), 溝跡 1 条, 道跡 1 条, 土坑 2 基

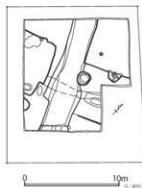
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から 150 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 21 次調査) がなされていたため、遺構配置のおおよその予想はついていたが、試掘時に 2 号住居跡とした部分については、今回の調査によって規模の大きな溝跡であることが判明している。以下、簡単に調査の経過を記す。

9 月 26 日: 調査区設定。 10 月 2～4 日: 重機による表土除去。 10 月 3 日: 遺構確認, 掘り込み開始。 図面・写真による記録作業開始。 10 月 10 日: 調査区全体図。 10 月 16 日: 調査区全体写真。器材撤収。 10 月 17～18 日 重機による埋戻し。

### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

**遺構** 第 2B 号住居跡および第 1 号溝跡, 第 1 号土坑と重複する。新旧は, 第 1 号住居跡→第 2B 号住居跡・第 1 号溝跡・第 1 号土坑となると思われる。当住居跡は硬化した床面の一部を確認したのみであり, 住居跡の



第 116 図 市毛上坪遺跡第 25 次調査区的位置

主軸方向や竪穴部の規模は不明である。炉は不明瞭であるが, 第 2B 号住居跡跡の焼土が炉になる可能性がある。遺物は少量出土したが, 時期を決定できる遺物はなかった。

#### 第 2A 号住居跡

**遺構** 第 2B 号住居跡および第 1 号道跡と重複する。新旧は, 第 2B 号住居跡→第 2A 号住居跡→第 1 号道跡と思われる。当住居跡の主軸方向は, N-26°-W を測り, 竪を北壁に置く。竪穴部の規模は, 主軸方向が約 4.4 m で, 壁高は北壁 10cm, 東壁 10cm, 南壁 18cm を測る。壁周溝はみられない。ピットは竪脇に深さ 25 cm ほどのピット 1 がある。南壁部のピット 2 は第 2B 号住居跡のピットになる可能性もある。床面は甍前から南壁に向けて硬化している。竪は遺存状況が悪いためその構造は不明であるが, 北壁をあまり掘り込んでいないようである。竪焚口に用いられた凝灰質泥岩が竪底面から出土した。

**遺物出土状況** 住居覆土が薄く, 床面付近の遺存も少なかった。いずれも破片での出土である。

#### 遺物説明

##### 第 119 図

1 台帳: P 6 材質: 土師器 器種: 鉢 残存: 10% 法量: 口径 (13.2), 器高 (7.7) 色調: 内外面ともに深い赤褐色。胎土: 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕: 一 備考: 外面胴部器面が摩滅している。

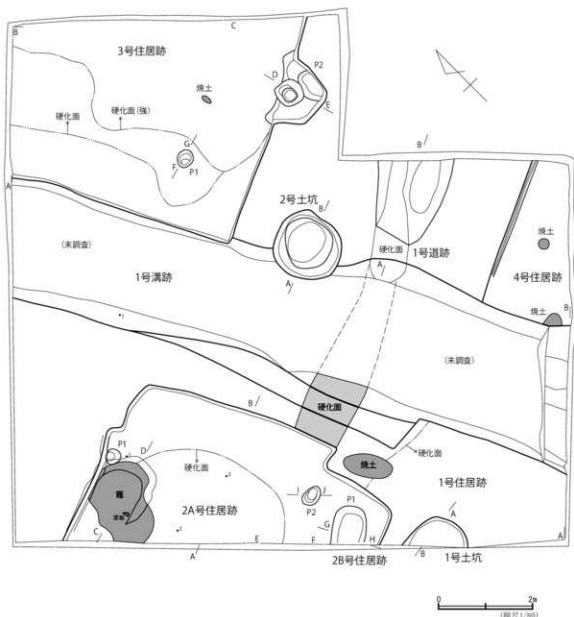
2 台帳: P 3 材質: 土師器 器種: 高杯 残存: 脚部 30% 法量: 器高 (5.4), 底径 (16.0) 色調: 内外面とも浅い橙～褐色。胎土: 礫 (白少), 砂 (白多, 透多, 黒多) 焼成: 良好 技法等: 外面上～中位ヘラ削り, 下位ヨコナデ。内面上～中位ヘラナデ, 下位ヨコナデ。使用痕: 一 備考: 一

3 台帳: P 2 材質: 土師器 器種: 杯 残存: 40% 法量: 口径 (13.8), 器高 5.4 色調: 外面に浅い橙～褐色, 内面に暗褐色。胎土: 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ, 下位ヘラ削り。内面口縁～体部上位ヨコナデ, 中～下位ヘラナデ後放射状にヘラミガキ。使用痕: 一 備考: 外面体部器面が摩滅している。

4 台帳: カマド 材質: 土師器 器種: 杯 残存: 20% 法量: 口径 (11.6), 器高 (3.9) 色調: 外面褐色, 内面に赤褐色。胎土: 礫 (白少), 砂 (白多, 透多, 黒多) 焼成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラナデ。使用痕: 一 備考: 一

#### 第 2B 号住居跡

**遺構** 第 1 号住居跡および第 2A 号住居跡と重複する。新旧は, 第 1 号住居跡→第 2B 号住居跡→第 2A 号住居



第117図 市毛上坪遺跡第25次調査区

跡と思われる。堅穴部の規模は不明である。壁高は東壁18cm、南壁21cmを測る。壁周溝はみられない。ピットは南東隅に長方形で深さ38cmのピット1がある。

**遺物出土状況** 住居覆土が薄く、床面付近の遺存も少なかった。土師器小片が少量出土している。

### 第3号住居跡

**遺構** 第1号溝跡と重複する。新旧は不明である。当住居跡の主軸方向は、北壁に竈を想定するとN・28°・Wを測る。堅穴部の規模は不明であるが、南北6m以上、東西5m以上の規模となる。壁高は南壁21cmを測る。壁周溝はみられない。ピットは、主柱穴と思われる深さ50cmほどのピット1のほか、南壁部から張り出して掘

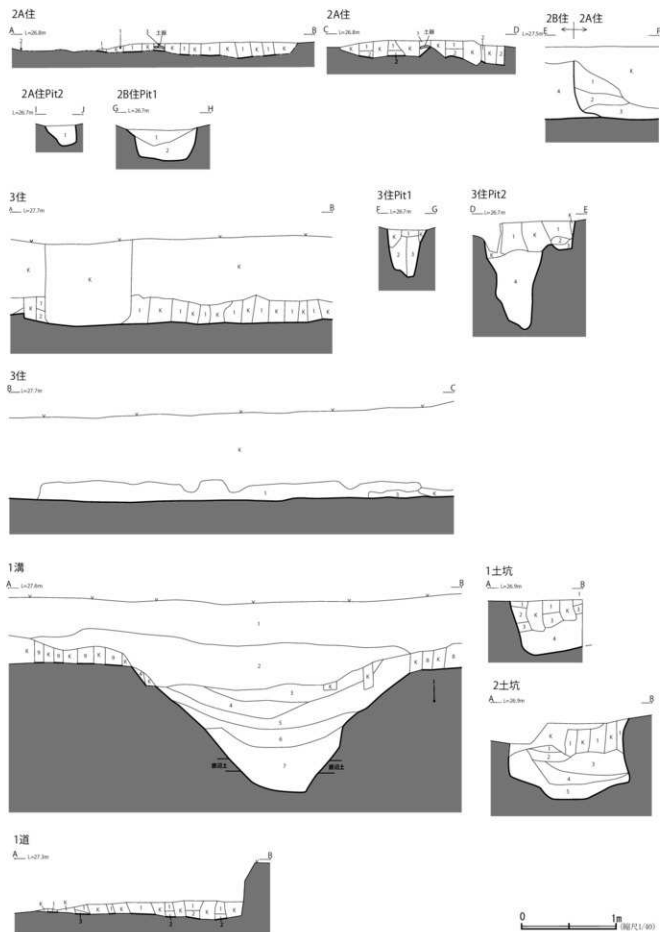
り込まれた半円形のピット2が存在する。ピット2内部には床面からの深さ約1mを測る柱穴上のピットが掘り込まれていた。床面はピット2から北壁方向に向けて硬化していた。床面の一部に焼土が認められているが、炭化材の出土が少量みられたことからみて、当住居跡は火事にあっているものと考えられる。

**遺物出土状況** 住居覆土が薄く、床面付近の遺存も少なかった。いずれも破片での出土である。

### 遺物説明

第119図

1 台帳:3住 材質:土師器 器種:甕 残存:把手 法量:一 色調:外面にふい黄橙~黒色。内面白色。胎土:硬(白少)、砂(白多、透多) 焼成:良好 技法等:外面ヘラナデ・ユビナデ。内面ヘラナデ。 使用甕:



第 118 図 市毛上坪遺跡第 25 次調査区の土層断面

一 備考：一

2 台帳：3住 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（13.8），器高（4.2） 色調：外面浅黄～暗褐色。内面黒褐色。胎土：砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラミガキ。内面に黒色処理。使用痕：一 備考：一

3 台帳：3住 材質：土師器 器種：土鉢 法量：長 3.2，最大径 3.5，口径 0.7，重量 42.22 g 備考：一

4 台帳：3住 Pt2 材質：土師器 器種：土鉢 法量：長 3.3，最大径 3.4，口径 0.5，重量 27.87 g 備考：一

## 第 4 号住居跡

**遺構** 第 1 号溝跡と重複する。新旧は、第 4 号住居跡→第 1 号溝跡である。当住居跡は一部を確認したのみであるため住居跡の主軸方向や規模は不明である。北壁の壁高は 2cm ほどであり、壁周溝が認められている。床面の焼土からみて火事にあっていると考えられる。遺物は出土していない。

### 市毛上坪遺跡第 25 次調査区土層説明

#### 2A・B 号住居跡

AB 土層断面

1 暗褐色（ローム粒多量含む）

CD 土層断面

1 褐色（白褐色粘土多量含む 焼土粒含む）

2 黄褐色（ローム上主体）

EF 土層断面

1 暗褐色（ローム小ブロック含む）

2 暗褐色（ローム粒少量含む）

3 暗褐色（ローム粒多量含む 暗褐色ブロック土・ローム粒含む）

4 暗褐色（ローム小ブロックやや多量含む ローム粒含む）

GH 土層断面

1 褐色（ローム粒含む）

2 黄褐色（ローム小ブロック主体 褐色土少量含む）

IJ 土層断面

1 暗褐色（ロームブロック・ローム小ブロック含む）

#### 3 号住居跡

AB・BC 土層断面

1 褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック・焼土粒含む  
ロームブロック少量含む）

2 明褐色（ロームブロック多量含む）

3 褐色（白褐色粘土ブロック多量含む 炭化材少量含む  
焼土粒・ロームブロック少量含む）

DE 土層断面

1 褐色（ロームブロック少量含む ローム小ブロック含む）

2 黄褐色（ローム上主体）

3 明褐色（ローム小ブロック多量含む）

4 褐色（ロームブロック多量含む）

FG 土層断面

1 明褐色（ローム小ブロック多量含む 締まり有り）

2 褐色（ローム粒多量含む 締まり無し）

3 明褐色（ローム小ブロック多量含む）

#### 1 号溝跡

AB 土層断面

1 暗褐色（耕作土）

2 暗褐色（ローム粒含む 耕作に伴う削削部か（天地返しによる？）

3 暗褐色（ローム小ブロック多量含む）

4 暗褐色（ロームブロック多量含む）

5 暗褐色（ロームブロック多量含む ローム大ブロック含む  
黒褐色土混じる）

6 暗褐色（ローム小ブロック多量含む やや締まり有り）

7 暗褐色（ロームブロック多量含む バミズブロック少量含む  
やや締まり有り）

8 黒褐色

9 黒褐色（ローム粒含む 1 住フク土）

#### 1 号道跡

AB 土層断面

1 暗褐色（ローム粒含む）

2 明褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック含む）

3 暗褐色（ロームブロック含む 締まり有り）

#### 1 号土坑

AB 土層断面

1 褐色（ローム粒多量含む）

2 明褐色（ローム小ブロック含む 暗褐色土混じる）

3 黄褐色（ローム小ブロック主体 暗褐色土混じる）

4 黄褐色（ローム小ブロック主体 暗褐色土少量混じる）

#### 2 号土坑

AB 土層断面

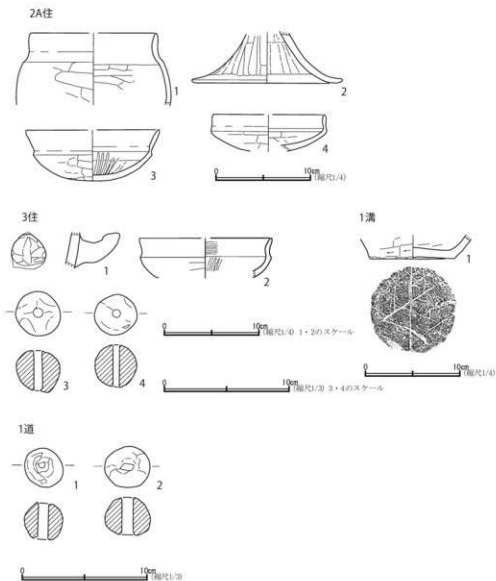
1 褐色（ローム粒多量含む）

2 明褐色（ローム小ブロック多量含む）

3 褐色（ローム小ブロック多量含む）

4 褐色（ローム小ブロック多量含む 第 3 層より暗色）

5 黄褐色（ロームブロック主体）



第119図 市毛上坪遺跡第25次調査区出土遺物(1)

### (3) 溝跡

#### 第1号溝跡

調査区を南北に縦断する断面V字形の溝である。確認面幅最大3.6m、地表からの深さ2.0mを測る。A B土層断面の第5層の堆積状況からみると、東方から流れ込んだように見えるので、溝の東側に盛土があったのかもしれない。なお、時期を決定できる遺物がなかったため、当溝の時期は不明である。

#### 遺物説明

第119図

1 台帳：P2 材質：土師器 器種：甕? 残存：底部100% 法量：器高(2.5)、底径8.9 色調：外面浅黄～黒色。内面浅黄色。胎土：礫(白微)、砂(白多、透多、黒多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り、底面木葉痕。内面ヘラナデ。 使用考：一 備考：内面器面の一部が剝離

している。

### (4) 道跡

#### 第1号道跡

硬化面の状況からみて、第1号溝跡を東西に横切るように認められた。硬化面の幅は広い部分で1.1mほどを測る。第1号溝跡の壁面にも硬化部が続くことから、第1号溝跡がある程度埋まった時点で道が造られたといえそうである。道跡の東端部には深さ24cmほどの浅いくぼみが形成されており、硬化面はその中に延びていた。なお時期を決定できる遺物がないため、道跡の時期は不明である。

#### 遺物説明

第119図

1 台帳：1道 材質：土師質 器種：土師 法量：長2.9、最大径3.1、孔径0.7～1.0、重量24.12g 備考：一

2 台帳：1道 材質：土師質 器種：土師 法量：長2.9、最大径3.5、

孔径0.6～1.0、重量33.72g 備考：一

### (5) 土坑

#### 第1号土坑

第1号住居跡と重複する。新旧は第1号住居跡→第1号土坑となる。直径1.1m、深さ0.5mを測り、やや傾斜を持つ平坦な床面であった。平面形状は円形になる可能性がある。時期は不明である。

#### 第2号土坑

第1号溝跡と重複する。新旧は不明である。直径1.4m、深さ0.8mを測り、周辺部がやや高くなる床面であった。平面形状は円形である。時期は不明である。

## (6) 調査区出土遺物

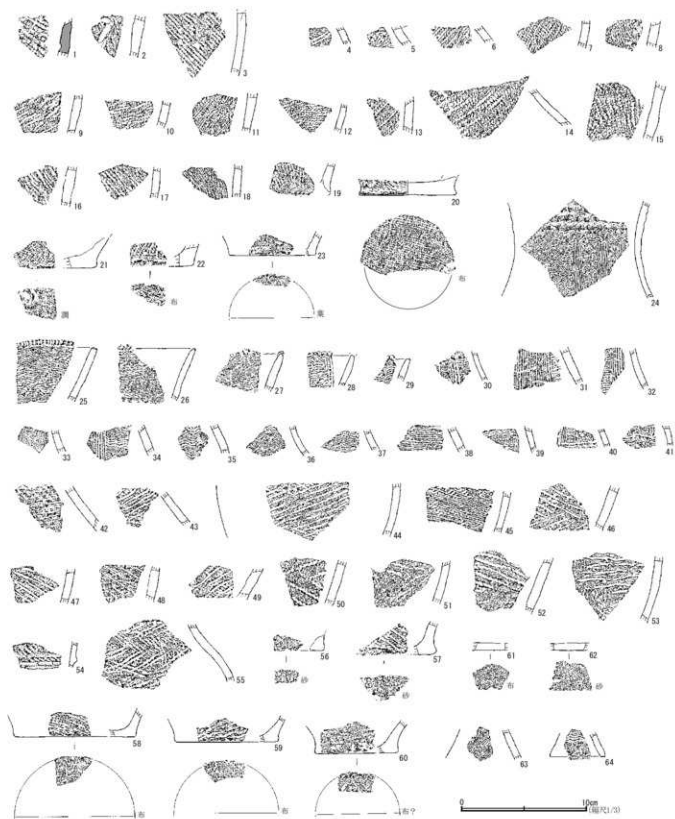
各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

### 遺物説明

#### 第120図

- 出土位置・注記：2A住 時代時期：縄文時代前期（竊土器） 文様：単節斜縄文（RL）備考：胎上に縞線を含む
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代後期（称名寺式） 文様：沈線文、単節斜縄文（LR力）
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代後期 文様：無節斜縄文（L）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 文様：平行沈線文（半藁竹管）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+R）
- 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+R）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+R）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（LR）
- 出土位置・注記：3住 pit2 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（RL）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：反摺り縄文（RR）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（RZ）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（Z力）
- 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（RL）
- 出土位置・注記：2A住 時代時期：弥生時代中期 法量：底径76mm（残存率48%） 文様：反摺り縄文（RR）力、底面布目痕
- 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）、底面調整痕
- 出土位置・注記：2A住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR+2R）、底面布目痕
- 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期力 法量：底径68mm（残存率16%） 文様：縄文（原体不明）、底面木葉痕
- 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 法量：直径100mm（残存率23%） 文様：口縁部縞線文、頸部隆帯3条（指頭押圧）、胴上部縞線文（縞面6本） 備考：器外面に煤付着
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：口唇部刻み（甕状工具）、口縁部縞線文（縞面3本） 備考：器内面剥落
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：口唇部刻み（甕状工具）、口縁部縞線文（縞面4本）
- 出土位置・注記：2A住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：口唇部突起・刻み（甕状工具）、口縁部縞線文（縞面6本）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：口唇部縞文（L×L力）、口縁部縞線文（縞面5本） 備考：胎上に金雲母を含む、口縁部縞線文の施文順序は波状文→縦区画
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：口唇部刻み（甕状工具）、口縁部縞線文（縞面4本）
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：頸部隆帯（指頭押圧）、縞線文（縞面4本）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本） 備考：胎上に金雲母を含む
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面5本） 備考：胎上に金雲母を含む、大型壺形
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面5本）
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面5本） 備考：器外面に煤付着
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面5本）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本） 備考：胎上に金雲母を含む、大型壺形
- 出土位置・注記：3住 pit2 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本） 備考：胎上に金雲母を含む、大型壺形、器内面剥落
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本力）
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：縞線文（縞面6本力）
- 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R×L） 備考：胎上に金雲母を含む、大型壺形
- 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R×R、LZ）
- 出土位置・注記：2A住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 法量：胴径145mm（残存率14%） 文様：付加条縄文（RS、LZ） 備考：器外面に煤付着
- 出土位置・注記：2A・B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（L×L） 備考：胎上に金雲母を含む、大型壺形
- 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：





第 120 图 市毛上坪遗址第 25 次调查区出土遗物 (2)

- 付加条縄文 (L×L, R×R) 備考: 大型壺形, 器内面剥落
- 47 出土位置・注記: 1 溝 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R.S, L.Z)
- 48 出土位置・注記: 表土 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (RL+L, R.S) 備考: 大型壺形, 器内面剥落
- 49 出土位置・注記: 2A・B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R×R) 備考: 胎上に金雲母を含む, 大型壺形, 器内面剥落
- 50 出土位置・注記: 2A・B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R.S, L.Z)
- 51 出土位置・注記: 1 道 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R.Z, L.S)
- 52 出土位置・注記: 2A・B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (L.Z, R.S) 備考: 器内面剥落あり
- 53 出土位置・注記: 1 溝 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (L.S, R.Z) 備考: 胎上に骨針を含む, 器外面に煤付着, 器内面変色
- 54 出土位置・注記: 1 溝 時代時期: 弥生時代後期 文様: 隆帯 (RL), 単節斜縄文 (RL)
- 55 出土位置・注記: 2A 住 P7 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (R.Z, 2R.S) 備考: 器外面に煤付着, 器内面の下部が変色
- 56 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (L.Z), 底面砂痕 備考: 胎上に金雲母を含む, 大型壺形, 器内面剥落
- 57 出土位置・注記: 1 溝 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (L×L), 底面砂痕 備考: 胎上に金雲母を含む, 大型壺形
- 58 出土位置・注記: 3 住 p12 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 法量: 底径 96 mm (残存率 10%) 文様: 付加条縄文 (L×L), 底面布目痕 備考: 器内面変色あり
- 59 出土位置・注記: 表土 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 法量: 底径 82 mm (残存率 14%) 文様: 付加条縄文 (R.S), 底面布目痕
- 60 出土位置・注記: 1 溝 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 法量: 底径 66 mm (残存率 17%) 文様: 付加条縄文 (R.S), 底面布目痕方
- 61 出土位置・注記: 1 道 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 底面布目痕
- 62 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 底面砂痕 備考: 胎上に金雲母を含む
- 63 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 高环形土器 (あるいは小型細頸形壺形土器か) 法量: 最大径 60 mm (残存率 13%の部分から推定) 文様: 櫛歯文 (櫛歯 6 本)
- 64 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 高环形土器 法量: 脚径 44 mm (残存率 12%) 文様: 櫛歯文 (櫛歯 4 本)





1 岡田遺跡第31次調査区



2 岡田遺跡第32・33次調査区



3 岡田遺跡第34次調査区



4 小貫山遺跡第2次調査区



5 上馬場遺跡第5次調査区



6 地蔵根遺跡第3次調査区



7 逸原遺跡第4次調査区



8 逸原遺跡第5次調査区



9 逸原遺跡第5次調査区1号住居跡遺物出土状況



10 平磯長根南遺跡第2次調査区



11 市毛上坪遺跡第20次調査区

図版 2 試掘調査 (2)



12 市毛上坪遺跡第 21 次調査区



13 市毛上坪遺跡第 22 次調査区



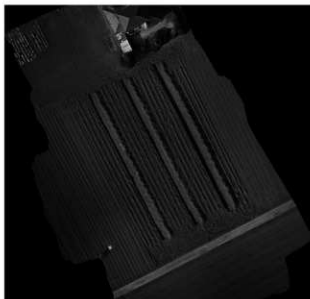
14 市毛上坪遺跡第 23 次調査区



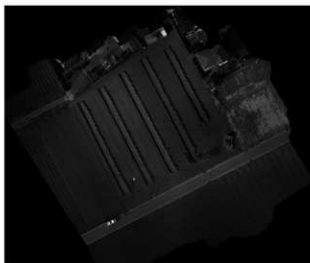
15 市毛上坪遺跡第 24 次調査区



16 虎塚古墳群第 12 次調査 A 区



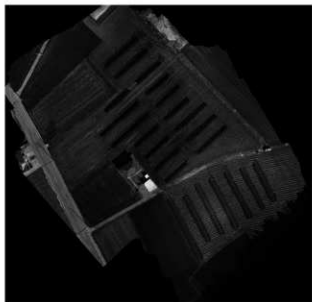
17 虎塚古墳群第 12 次調査 B 区



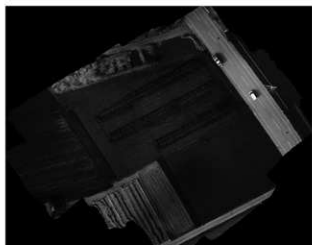
18 虎塚古墳群第 12 次調査 C 区



19 北谷遺跡第 3 次調査 A 区・B 区



20 中根北谷北通跡第 2 次調査 A 区



21 中根北谷北通跡第 2 次調査 B 区



22 高野富士山通跡第 12 次調査区



23 磯合古墳群第 4 次調査区



24 浅井内通跡第 2 次調査区



25 浅井内通跡第 3 次調査区



26 天王前通跡第 6 次調査区



27 天王前通跡第 7 次調査区



28 向野 A 通跡第 5 次調査区 1・2 トレンチ

図版4 試掘調査 (4)



29 向野A遺跡第5次調査区3・4トレンチ



30 黒神遺跡第7次調査区



31 裕遺跡第1次調査区



32 市毛本郷坪遺跡第9次調査区



33 西埴遺跡第12次調査区



34 君ヶ台遺跡第12次調査区



35 君ヶ台遺跡第13次調査区



36 原の寺遺跡第1次調査区



37 堀口遺跡第29次調査区



38 市毛下坪遺跡第14次調査区



39 市毛下坪遺跡第15次調査区



40 市毛下坪遺跡第16次調査区



41 市毛下坪遺跡第17次調査区



42 松原遺跡第6次調査区



43 田宮原1遺跡第1次調査区



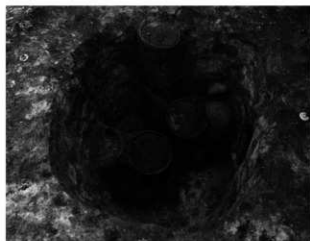
44 市毛上坪遺跡第19次調査区



45 市毛上坪遺跡第19次調査区第1号住居跡



46 市毛上坪遺跡第19次調査区第1号住居跡隅部床面遺物出土状況



47 市毛上坪遺跡第19次調査区第1号住居跡ビット2遺物出土状況



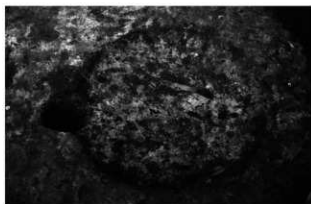
48 市毛上坪遺跡第19次調査区第2号住居跡



図版6 発掘調査(2)



49 市毛上坪遺跡第19次調査区第4号住居跡



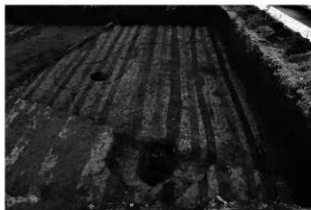
50 市毛上坪遺跡第19次調査区第7号土坑



51 市毛上坪遺跡第25次調査区



52 市毛上坪遺跡第25次調査区第2A号住居跡



53 市毛上坪遺跡第25次調査区第3号住居跡



54 市毛上坪遺跡第25次調査区第4号住居跡



55 市毛上坪遺跡第25次調査区第1号溝跡



56 市毛上坪遺跡第25次調査区第2号土坑

# 報告書抄録

フリガナ	ヘイセイサンジュネンドヒタチナカシナイセイキハクツツジョウサホウコクシヨ
書名	平成30年度ひたちなか市内道路究極調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	鈴木素行, 稲田健一, 佐々木義則
編集機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根3499 ひたちなか市理蔵文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号
発行年	2019年3月14日

所在道路名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	道路番号						
オオサテ 大田	ひたちなか市 三反田	08223	030	30° 22' 5"	140° 33' 33"	21.5m	201804	29㎡	31.3
				30° 22' 8"	140° 32' 25"	22.0m	201805	25㎡	32.3
				30° 22' 8"	140° 32' 25"	22.0m	201805	25㎡	33.3
				30° 22' 14"	140° 32' 33"	22.0m	201810	21㎡	34.3
オオサテヤマ 大田山	ひたちなか市 大田	08223	064	30° 26' 1"	140° 32' 43"	51.9m	201801	32㎡	2.3
カミハイ 上尾	ひたちなか市 津田	08223	053	30° 23' 59"	140° 28' 37"	27.0m	201801	24㎡	5.3
ジツノネ 堀堀	ひたちなか市 藤倉	08223	119	30° 22' 41"	140° 31' 50"	22.3m	201802	27㎡	3.3
				30° 22' 40"	140° 31' 49"	23.1m	201811	54㎡	4.3
トモイロ 湯原	ひたちなか市 赤上	08223	034	30° 22' 40"	140° 33' 29"	15.5m	201802 ~ 201803	39㎡	4.3
				30° 22' 39"	140° 32' 34"	12.2m	201805	98㎡	5.3
ミライイデボロイミナモト 平蔵山	ひたちなか市 平蔵山	08223	307	30° 21' 46"	140° 36' 50"	22.3m	201803	25㎡	2.3
イナガキミヤ 赤毛上野	ひたちなか市 赤毛	08223	131	30° 23' 49"	140° 29' 10"	27.5m	201801 ~ 201802	51㎡	19.3
				30° 23' 53"	140° 29' 52"	27.0m	201803	14㎡	20.3
				30° 23' 53"	140° 29' 52"	27.0m	201805	35㎡	21.3
				30° 23' 52"	140° 29' 53"	27.2m	201806	19㎡	22.3
				30° 23' 53"	140° 29' 52"	27.0m	201808	18㎡	23.3
				30° 23' 49"	140° 29' 58"	27.0m	201808	23㎡	24.3
				30° 22' 53"	140° 29' 52"	27.5m	201809 ~ 201810	118㎡	25.3
トウカイコクラン 塚岡山 トキヤ 寺子 チカキミヤ 赤毛上野	ひたちなか市 中根	08223	023	30° 22' 30"	140° 34' 4"	20.3m		833㎡	12.3
				30° 22' 44"	140° 33' 59"	22.4m	201712 ~ 201801	240㎡	3.3
				30° 22' 53"	140° 33' 57"	23.1m		877㎡	2.3
コウヤアヤマ 高野山	ひたちなか市 高野	08223	062	30° 25' 43"	140° 33' 13"	31.8m	201804	40㎡	13.3
イノアイコクラン 磯山	ひたちなか市 磯山	08223	241	30° 22' 35"	140° 33' 21"	24.1m	201804	55㎡	4.3
アサヒイ 朝日	ひたちなか市 磯山	08223	299	30° 20' 59"	140° 36' 1"	24.2m	201804	42㎡	2.3
				30° 21' 0"	140° 36' 1"	24.3m	201806	43㎡	3.3
ツノクマエ 犬上	ひたちなか市 三反田	08223	104	30° 21' 59"	140° 33' 29"	20.2m	201805	50㎡	6.3
				30° 22' 00"	140° 33' 30"	20.5m	201809	43㎡	7.3
ムラノブ 村野	ひたちなか市 赤毛	08223	148	30° 24' 16"	140° 33' 40"	51.7m	201806	52㎡	9.3
チロヒヤマ 茶臼山	ひたちなか市 津田	08223	007	30° 24' 21"	140° 29' 4"	26.7m	201806	25㎡	7.3
ハダ 畑	ひたちなか市 三反田	08223	107	30° 22' 13"	140° 35' 5"	18.6m	201806	118㎡	1.3
イナガキミヤ 赤毛上野	ひたちなか市 赤毛	08223	133	30° 23' 39"	140° 30' 16"	26.3m	201807	89㎡	9.3
ニハツハ 二反田	ひたちなか市 三反田	08223	125	30° 23' 15"	140° 31' 2"	22.3m	201807	10㎡	12.3
キミダテ 木戸	ひたちなか市 中根	08223	011	30° 23' 15"	140° 33' 32"	24.1m	201807	45㎡	12.3
				30° 23' 16"	140° 33' 36"	23.7m	201810 ~ 201811	20㎡	13.3
ハラノクラ 原の倉	ひたちなか市 磯山	08223	181	30° 23' 1"	140° 34' 3"	31.3m	201808	26㎡	1.3
キリダテ 桐	ひたちなか市 磯山	08223	004	30° 23' 28"	140° 30' 37"	25.7m	201809	108㎡	29.3
イナガキミヤ 赤毛上野	ひたちなか市 赤毛	08223	130	30° 22' 32"	140° 30' 21"	26.4m	201810	69㎡	14.3
				30° 22' 32"	140° 30' 16"	25.9m	201812	25㎡	15.3
				30° 23' 33"	140° 30' 16"	26.0m	201812	22㎡	16.3
				30° 23' 32"	140° 30' 16"	26.2m	201812	19㎡	17.3
マツノ 松	ひたちなか市 津田	08223	037	30° 24' 38"	140° 30' 49"	27.1m	201811	49㎡	6.3
キミダテ 木戸	ひたちなか市 中根	08223	201	30° 21' 30"	140° 35' 27"	23.0m	201811	24㎡	1.3

## 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

---

平成 31 (2019) 年 3 月 14 日発行

編 集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発 行 ひたちなか市教育委員会

〒 312-8501 茨城県ひたちなか市東石川 2 丁目 10 番 1 号

TEL 029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒 312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL 029-276-8311

印 刷 弘美印刷株式会社

〒 312-0062 茨城県ひたちなか市高場 2577-1



再生紙及び植物油インクを  
使用しています。